**『まっしろけのぽぷり』の翻訳**

20 Ж В (2009/06/16) 執筆開始

20 ЖЕ（2009/06/19）幻文コピー終了

20 ЖЗ（2009/06/22） 翻訳終了

Kakis Erl Sax

　この文書は、2005年7月1日から2005年9月6日にかけてセレン＝アルバザード氏が執筆した”popli pal”（邦題：『まっしろけのぽぷり』）を翻訳したものである。本文書は2009年6月16日、テキストで書いたのちに2009年6月17日ワードに移転したものである。

　6月19日にノートの画像からテキスト化する作業を終了し、翻訳は6月22日に終了した。経過については、Kakis Erl Saxによるブログ録霊徒然草のカテゴリー”populi pal(999.3)”を参照のこと。

　元データは３２行の大学ノートに手書きされた資料である。ネット上では、2007/07/29 22:06、ブログ『アルカの部屋』[「まっしろけのぽぷり」](http://kakis.cocolog-nifty.com/blog/2007/08/post_9116.html)で[arkas.lzh](http://kakis.cocolog-nifty.com/blog/files/alkas.lzh)のIMG\_0021.jpgから、[arxan.lzh](http://kakis.cocolog-nifty.com/blog/files/alxan.lzh)、[arson.lzh](http://kakis.cocolog-nifty.com/blog/files/alson.lzh)に画像情報としてアップロードされた。電子化されたテキストは２００９年６月１６日現在も存在しなかったため、Kakis Erl Sax（辞書等の公式データではaxtanと呼ばれる）がテキストに起こしたものである。

　使用言語は[中期制アルカ](http://www33.atwiki.jp/kakis/pages/10332.html)である。2003年6月ごろから2005年12月19日まで使用されたヴァージョンである。ただし、中期制アルカと呼ばれる時代でも文法語彙の変動があるため、『アルカ』に見られる2003年10月ごろのヴァージョン、『アトラス』や『幻想話集アティーリ』に見られる2004年2月ごろのヴァージョン、『ヴァステ』にみられる2004年8月ごろのヴァージョン、『水の書』やこの『まっしろけのぽぷり』にみられる2005年春夏ヴァージョンで各々違いがみられる。  
　文法については[fol.zip](http://kakis.cocolog-nifty.com/blog/files/fol.zip)所収のパルサー＝アルバザード氏執筆、セレンアルバザード氏編集の『制アルカ概説書』、ないしこれらからまとめたKakis Erl Saxによる[arka@wiki](http://www33.atwiki.jp/kakis/)の[中期制アルカ文法](http://www33.atwiki.jp/kakis/pages/10333.html)で把握できる。

辞書は、2004年2月20日から11月6日までの12の辞書が収録された[arka-parm.lzh](http://kakisdespa.cocolog-nifty.com/blog/files/arka-parm.lzh)と制アルカ最後の辞書である[xia318.dic](http://kakisdespa.cocolog-nifty.com/blog/files/xia318.dic)を使用する。これらのソフトは[ユニコード非対応版PDIC](http://homepage3.nifty.com/TaN/pdic-download.html)で機能する。詳しい利用法は、セレン＝アルバザード氏による新生アルカ公式サイト[「人工言語アルカ」](http://www8.atwiki.jp/arbazard/)の[「辞書」](http://www8.atwiki.jp/arbazard/pages/553.html)を参照のこと。中期制アルカと後期制アルカの間には多くの単語に変更が生じたため、パルサー＝アルバザード氏の[変更一覧](http://www33.atwiki.jp/kakis/pages/5403.html)も参照する。

　使用フォントは旧明朝taphacである。制アルカの動詞媒体を表示するためには、新生アルカ時代に作られたものではなく古いヴァージョン[sidmin\_taphac.zip](http://kakis.cocolog-nifty.com/blog/files/sidmin_taphac.zip)を用いるのが望ましい。新しいフォントでは、動詞媒体はアンダーバーとして表示されてしまう。このzip内部のttfを[C:] > [Windows] > [Fonts]など、フォントを収納する部分に入れれば使用できる。ただし、アルカの文字、hacmに不慣れな人にとっては、ダウンロードせずラテンアルファベットで読んだ方が早いかもしれない。PDFなどであらかじめhacm表示になっている場合はCtrl + Aで全文を選択し、Ctrl+Cでコピー、その後メモ帳などにCtrl + Vでペーストすればラテンアルファベット表示になる。

О Ж Р

ウムトナの年ザナの月レレゾナの日(２００５年７月１日)

"populi pal"

『まっしろけのぽぷり』

ladan:М\Ξ

作者：セレン＝アルバザード

estelan:М\Ξ

翻訳者：セレン＝アルバザード

laz:nae 1

少女：第一章

kets xo siv-ik. tiz it sic4, axte.

ある猫が鳴いた。今は四月、春である。

par it-in har. yan sec tu it-is kit.

太陽は赤くなっている。そしてこの日は終わろうとしている。

koo et nexra ka koixikawa e bunkyouku e toukyouto.

ここは東京都文京区小石川の一軒家だ。

laz xo un av-e ez tu ev-is besa il felsab.

この部屋を持つある少女は制服から埃を払っている。

@tee, ala ti to-i, populi. tu et sam!`

「駄目、一体何をしてるの、ぽぷり。これは新しいのよ！」

laz ku-i tu al kets un xa-i hi lu. tal kets del populi ten-u lu in, vesn-is nan. laz in-i lu, ku-i

少女は彼女の下にいる猫に言う。しかし、ぽぷりという猫は彼女のことを聞いていないらしく、自分をなめている。少女は彼を見て、曰く

@apen, ti et kea didn`

「あきれた、あなたはいつも気楽ね」

laz ev-i il felsab on ni e populi un left-a rom al lu. im tu, laz sak-i ext kiv ni.

少女は、急に彼女に跳びかかったぽぷりの毛を制服から払う。その時、少女は毛以外の汚れを見つける。

besa# em lu taf-a ka xe. haa, do sab-ih poolto al kets kak oma.

彼がどこかで取った……埃。はぁ、みんなは犬と同じように猫に首輪をつけた方がいい。

tal laz os-i sad alt dox-i lu man kets lu un av-e pots daf ot ma jax vao ek viv.

しかし少女は、茶色い斑を持つこの猫は運動をしなければさらに太ると思いなおし、彼を許した。

laz lod-a parmmifi sa 3 soot. tal tiz, lu na-i map fets.

少女は三週間前に中学に入学した。しかし今、彼女は既に息苦しさを感じている。

tolx e sems et as tat sec tot parmmifi. tu et kin.  
部活の練習は中学では毎日行われる。これはつらい。

laz zik-ah sems kilk foo. tal lu jal-ul tu.

少女は明日までに部活を選ばなければならない。しかし彼女はこれを選べない。

ail, sems dals ova vavsems et kin. yan kek et kan tin ten. laz ten-a tu il altis im ked.

普通、運動部のような活発な部活はきつい。そして逆はとても楽だという。少女は帰りに幼馴染からこれを聞いた。

laz ok altis kalt-a sems al xok. yan laz xo os-a sems dils ova milfsems et aat. tal laz es-i nan semt-ux xe du 3 sac as. tal, olta oi, tu van selossems et aat tin.

少女は幼馴染と部活について互いに相談した。そして少女たちはたとえば美術部のような活発でない部活がよいと考えた。しかし少女は三年間も何かを編みたくないと思う。しかし、少なくとも、これのほうが幽霊部よりはるかに良い。

laz lapx-i kont ev-i besa / ni e populi. kuim, felsab tu tan et fets. son lu halk-i tu al bol sa ev-o ar ext.

少女は埃とぽぷりの毛を払いながらため息をつく。そういえば、この制服も息苦しい。だから彼女は汚れを払いきる前にこれを壁に掛けた。

tal tu it-ip met il halk. laz it net al halk im tiz in.  
しかしこれはハンガーから落ちようとしている。今、少女はハンガーに慣れていないようだ。

son lu vosk-i dam-i felsab al halk tot kokko.

だから彼女は制服をバランスよくハンガーに合わせようと努力している。

si tu, laz skin-ik al elenski. yan laz fatl-i preta e　semslod il mask daf / sam, ov-i tu al elen.

このあと、少女は机の椅子に座った。そして少女は新しい茶色い鞄から入部のプリントを取り出し、これを机に置く。

^tiz, an to-ih eyo.~

（さあ、私はどうしたらいいかしら）

lu os-i tal jal-ul. lu xat-i axt-i es milfsems al mas, fak apez is ilen lau. tal kilk tiz, lu axt-in saim/ilx/ust hot.

彼女は考えたが決められない。彼女はなぜ美術部なのかを紙に書く必要があり、加えて両親からの判子さえ必要としている。しかし今までに、彼女は組と番号と氏名だけ書いてある。

※ここのapezはapaz（印鑑）と思われる。

laz in-i si, kekl-i kets.

少女は下を見て、猫を呼ぶ。

lu sab-an vavsab pot felsab kak felan do. yan lu ext-ix tu man tu it moa ext man vavpat e xax 5.

彼女はすべての学生と同じように制服の中に体育着を着ている。そして五時間目の体育のためこれは既に汚れているので彼女はこれを汚してもよい。

lu flox-i kets, in-i me la, na-i nak.

彼女は猫を持ち上げ、再び彼を見て、驚く。

@ti ke-a am?`

「あなたはどこに行ったの？」

kets lu sab-in besa da ento viknan ku-i tu.

この猫は飼い主がこのように言うほど多くの埃をかぶっている。

@an in-ik ti pal soo il li`  
「私はあれ以来そんなに白い貴方を見たわ」

im tu, laz na-i zal. lu ku-ik ”il li”im tiz, ya, ek jik.

この時、少女は不思議に思った。彼女は今「あれ以来」と言った、そう淀みなく。

※ここのjikはjak(粘りつく)か？

tal, son “il li” et om? lu hel-ul tu.

しかし、ならば「あれ以来」とはいつか？彼女はこれを思い出せない。

^li at om? an hel-ul tu sin~

（あれはいつだった？私はこれを思い出せないわ。）

im tu, populi em laz tak-in mef-i al bol kont siv.

この時、少女が抱いているぽぷりが鳴きながら床に降りる。

@ap, populi!`

「あっ、ぽぷり！」

rom, laz kna-i vex tak kor kets. yan im tu, lu hel-ik “im li” et om.

急に、少女は思わず猫のほうに腕を伸ばす。そしてこの時、彼女は「あれ以来」とはいつか思い出した。

son lu na-i rom namt e im tu, sike-it populi il ez.

だから彼女はにわかにこの時の喜びを感じ、部屋からぽぷりについていき始めた。

^an erx-aho populi man lu at ma pal tin~

（このあとまっしろけになるだろうから洗ってあげなくちゃ）

laz ke-is ez em populi ke-i. lu se-i zan. yan lu na-i land/vem im kak.

少女はぽぷりが行く部屋に向かっている。彼女は目的地を知っている。そして彼女は同時に期待と怖れを感じた。

tist@ox, me#`

小声「もしかして、また……」

tsubaki : nae 1

椿：第一章

@axo-ax im foi, tsubaki liij`

「今日遊ぼう、椿ちゃん」

fian un av-i nia sakr ku-i tu al fian del tsbaki.

揃った髪を持つ女児が椿という女児にこう言った。

tsubaki in-i lu, ku-i @pent, an av-e sano im foi`

椿は彼女を見て、「ごめん、今日は予定があるの」と言った。

lu av-e nia daf ye/tania/ins dok/daf/tarop, fak kaam/six dif. lu et fian ank tin.

彼女は少し茶色い髪と二つ結び大きい茶色い目と二重瞼、そして桃色の頬と唇を持っている。彼女はとてもかわいい少女である。

@sano toB, tsunaki`

「何の用事？、椿」

fiin un sab-in loob alat “vama” et axt moz-ik tu al tsubaki.

「ＷＩＬＤ」と書かれた帽子をかぶっている男子児童が椿にこう口を挟んだ。

@an axo-o ok xo`

「私はだれかと遊ぶの」

fiin @mm#`

少年「う～ん……」

fian e sakrnia @nee, tiso axo-ex ok anso?`

おかっぱの少女「ねぇ、あなたたちは私たちと遊んだら？」

fiin@ya, oson aat!`

少年「うん、グッドアイディア！」

tsubaki@ok yayoi liij / youta sou?`

椿「弥生ちゃんと陽太君？」

luso wik-i ek ku. tal tsubaki ens-i me luso.

彼らは黙って頷く。しかし椿は彼らに再び断る。

tsubaki in-i mes. koo et saimez e parmmifa.

椿は周りを見る。ここは小学校の教室である。

luso it felnif 1, lod-a ami koo.

彼らは一年生、ここに入学したばかりである。

si sain-a u xa-i mes nan, tsubaki ku-i tipn

自分の周りに誰もいないことを確かめた後で、椿は冗談めかして言う。

@tu et nekt`

「これは秘密よ。」

tsubaki : nae 2

椿：第二章

tona lant ku-i xe al xo ka los lat e ra un xa-e koixikawa e bunkyouku e toukyouto.

東京都文京区小石川にある家の玄関で美しい三十代の女性が誰かに何かを言っている。

lu sab-in xer / sab zan lab. lu lab-ip kot in.

彼女は仕事のための化粧と服を着てある。彼女は仕事に行こうとしているようだ。

@tsubaki, an ke-i loit. ti vat-al skol yayoi liij / youta sou du 15 fei`

「椿、私は仕事に行くわ。あなたはいつものように弥生ちゃんと陽太君を十五分待つのよ。」

tal tsubaki sok-i u al lu. lu tid-i fo e teik hot.

しかし椿は彼女に何も答えない。彼女にはテレビの音だけが聞こえた。

@tsubaki, ti ten-i an?`

「椿、聞いてるの？」

son, ai, lu tod-i @aax` il salez, lov-i ra si lapx.

すると、ようやく、彼女は居間からの「はーい」という声を聞き、ため息の後で家を出発した。

tsubaki hanexilo zik-in tespon da e teik ka salez.

羽白椿は居間でテレビの多くのチャンネルを選んである。

in-in lol di im dav. tal tsubaki is-e ex teik. ya, olta inon lol u. lu soo-e man lip-e lik.

lu zik-in tespon kak ras da il sakt.

朝は興味の浅いものを見ている。しかし椿はテレビを消そうとしない。そう、例え全く興味がない番組でも。彼女はさみしさを厭うてそうしているのだ。彼女はさっきから何回も同じチャンネルを選んでいる。

tsubaki na-e bin tin kelk yayoi miula / youta manaixi un led-a mivn kak xom-o ra e tsubaki zan ke-i felka.

同じ幼稚園を卒業した三浦弥生と愛石陽太が通学のために椿の家を訪れるまで椿はとても退屈であった。

tsubaki exl-i dab dio kont in-i teik. son fiin xib un av-e nia xokt / daf, sab-en lonte it nok al teik.

椿はテレビを見ながら面倒そうに歯を磨く。すると茶色く縮れた髪を持ち、ターバンを巻いた架空の少年がテレビにあらわれた。

lu sab-en, fak, teebe pal. lu et diidaan in tal av-e sir pal.

彼は加えて白いローブを着ている。彼はインド人のようだが、白い肌をもっている。

@soono, do. tu et pelulu!`

「おはよう、みんな。こちらペルル！」

tsubaki sok-i @soono` al lu. tal lu ku-ul ekos man dioexl.

椿は彼に「おはよう」と答えた。しかし彼女は歯ブラシのため流暢に話せない。

son lu aga-i kot. pelulu fiin milm-is tol lem ka teik.

だから彼女はうがいをしに行く。ペルル少年はテレビで音楽に合わせて踊っている。

lu it lakt im tiz, pelulu fiin. tsubaki ku-e kea@ilpasso sete, pelulu!`lex depente ol na-i nil.

彼は今人気のペルル少年だ。椿は不安を感じると祈りとしていつも「大丈夫でしょう、ペルル！」と言う。

tsubaki av-e lent e lu as. yan tiz, lu milm-is tol pelulu.

椿は彼の人形さえ持っている。そしていま、彼女はペルルに合わせて踊っている。

@hai, kes it arkans. ti vast-o an sei, ya?`

「さぁ、次はジャンケンだ。僕に勝てるかな、いいかい？」

si milm, kea, arkans. yan im tu, yayoi so lev-e kea ra zan tsubaki. foi tan, foar it-ik as.

踊りの後、いつも、ジャンケンである。そしてこの時、いつも弥生たちが椿のために家に到着する。今日も呼び鈴が鳴った。

tsubaki las-i slea kont sok-i @aax!` al luso.

椿は彼らに「はーい！」と返事をしながらパーを出した。

lu xos-i felxob kont in-i teik, las e pelulu.

彼女はテレビ、ペルルの手を見ながらランドセルを背負う。

tu at trea#.

それはチョキだった……。

@teen#`

「あ～あ…」

tsubaki is-i teik kont na-i vist.

椿は敗北感を覚えながらテレビを消す。

@solvat`

「おまたせ」

ku-i al luso kont lit-i il loslat. son luso saen loslat tan ku-i kak.

玄関から出ながら彼らに言う。すると玄関の前の彼らも同じことを言う。

tsubaki koz-i loslat fo koz un lik-i me lu.

椿は彼女を再びさみしがらせる鍵の音を立てて玄関を施錠する。

tal tsubaki nix-i tin zan set-i lik tu.

しかし椿はこのさみしさを紛らわすために大いにほほ笑んだ。

@ya, ketta` lu lof-it didn sa luso.

「うん、行こう」彼女は彼らの前で陽気に歩き始める。

felka e tsubaki sol-e felan ke-e felka ok xok ova nox un av-e 5 via felan.

椿の学校はたとえば五人ぐらいの児童のグループで児童を一緒に学校に行かせる。

tot nox e tsubaki, tu av-e tsubaki / yayoi / youta un et nif 1, fak 2 felan un et nif 3, fak 1, nif 6 un et eta e yayoi del satsuki un wit-i al tsubaki yul soono.

椿のグループでは、一年生の椿、弥生、陽太、さらに三年生の二人の児童、さらに一人、おはようと椿にあいさつする皐月という弥生の姉である六年生がいる。

@soonoyun, satsuki luu`

「おはようございます、皐月さん」

lu nix-i al tsubaki. son tsubaki na-i me nom al yayoi un av-e eta soo, satsuki. tsubaki iv-e etu. fak lau et kea vok. son lu na-e nom al yayoi, aal im yayoi lof-e ok satsuki kont bik-i las e lu.

彼女はさつきに微笑む。すると再び椿は皐月というそのような姉を持つ弥生を羨ましく感じる。椿に兄弟はいない。さらに両親はいつも忙しい。だから、特に弥生が皐月の手を握りながら皐月と歩いているとき、彼女は弥生に羨ましさを覚える。

tsubaki lof-is emt kent ten-i youta. tsubaki lod-a ami felka. tal lu na-i tif-in yayoi, alfi lu na-i tif-in me xo. yan lu na-i els.

椿は陽太のいうことを聞き流しながら悲しく歩いている。椿は学校に入学したばかりだ。しかし、彼女は弥生を失っていると感じた、つまり彼女は再び誰かを失っていると感じた。そして彼女は憂鬱を覚えた。

@nee, tsubaki`

「ねぇ、椿」

nak@ep, to?`

驚いて「えっ、何？」

@ti kit-a rafel li? hel, sevaxt e “lap e an”`

「あの宿題は終わった？ほら、「わたしのねがい」の作文」

@ya`

「うん」

@an ixt-il tu, ketta`

「おれはそれを読みたいぞ、さぁ」

@mm#tee`

「う～ん……だめ」

@ala, es{`

「なんで？」

@teeo!`

「だーめ！」

tsubaki lof-i rak lu kont ku-i minx @man ti av-e hibiki sou`. hai, hibiki et ete e youta. lu it nani em youta volx-i.

椿は気づかれないように「だってあなたは響君がいるから」と言いながら彼を歩きすぎた。かれは陽太が大切にしている赤ちゃんである。

@ten, ten, an axt-a al sev on an mac-o ti man u lap-i ti, tsubaki`

「きいて、きいて、おれは作文に誰もお前をほしがらないからおまえと結婚するって書いたんだ、椿。」

lu ku-i tu kont lef ye. tal tsubaki ens-i lu.

彼は少し走りながらこう言った。しかし椿は彼を断った。

@ti, aa# von yayoi liij na`

「あなた、ああ……よりも弥生ちゃんかな」

@es?`

「なぜ？」

@man ti sin-e raaxo`

「あなたはままごとが嫌いだから」

tsubaki ku-ik tu mesa lik.

椿は寂しそうにこう言った。

tsubaki : nae 3

椿：第三章

in dov e sec tu, tsubaki in-i teik ka salez.

この日の夕方、椿は居間でテレビを見ている。

tiz it rak vel. eli del laa e lu ked-o ra si 30 fei via, yan si tu, dave. tal tiz, lu na-i lik tin.

今は五時過ぎである。彼女の母エリは三十分後ぐらいに家に帰り、そしてそのあと、晩御飯である。しかし今、彼女はとても寂しかった。

@peluluC, an na-i vem`

「ペルル～、私怖い」

lu snik-i al fosk. lu tod-i lentkyo e teik hot. yan lu id-i paa mem e axppam hot.

彼女はソファーに座る。テレビの人形劇だけが彼女に聞こえる。そして蛍光灯の丸い光だけが見える。

im lu na-i kamp, kets left-ik rom al lu kont xiv.

彼女がまぶしさを感じているとき、猫が鳴きながら突然彼女に跳びかかった。

@a, teen! ti nak-ol an, populi, ax?`

「あ、やだ！驚かせないで、ぽぷり、いい？」

tsubaki flox-i lu ha fosk kont gad.

椿は不平を言いながら彼をソファーの上に持ち上げる。

son paa e axppam it ma ye man kets tis un av-e pots daf. yan tsubaki xakl-ik xe.

すると茶色いぶちを持つ小さな猫のために蛍光灯の光が少しになる。そして椿はあることに気がついた。

@to? # es ti it ma pal ar? ak ti tif-a pots e nan?`

「何？……なぜあなたはまっしろになっているの？どうやって自分のぶちをなくしたの？」

populi it ma pal ar man besa.

ぽぷりは埃で真っ白になっている。

@eli jik-o ti, populi`

「エリがあなたを叱るわ、ぽぷり」

tal im tiz, lu hel-ik eli ev-a besa il populi kon fip kont jok im foa, fak populi dakt-a al tsubaki omo kaen fosk man lip-i el.

しかし今、彼女は、昨日エリが叱りながら付近でぽぷりから埃を取って、さらにぽぷりが水を嫌がってソファーにいる眠たい椿にぶつかったことを思い出した。

@kuim# ti at pal im foa tan sete, populi?`

「そういえば……あなたは昨日も白かったでしょ、ぽぷり？」

@uni #`lu don-i tsubaki yun.

「うにぃ……」彼は椿を肯定しているようだ。

@hai, ti taf-a besa da soo ka am im foa / foi?`

「ところで、あなたは昨日と今日どこでそんなにたくさん埃をかぶったの？」

son populi left-i il tsubaki kont siv, lof-i ez zan ism-i al lu yun. son tsubaki sike-it al lu.

するとぽぷりは鳴きながら椿から跳び、彼女に答えるためかのようにに部屋を歩いている。だから椿は彼についていき始めた。

tist@avan, la ke-is am non?`

小声「気をつけて、あの子はどこに行ってるの？」

tsubaki lit-i il salez al epn, mod-i naf.

椿はリビングから廊下へ出て、階段を上る。

populi left-i did nif. alt, tsubaki mod-i nif kon tik hom tin.

ぽぷりは軽々と段を跳ねる。一方、椿は足を大きく広げて段を上る。

ka bol 2, tsubaki lof-i pak epn al omi pi / lii.

二階で、椿は左奥の扉に向かって廊下を歩み進む。

omi tu it hom.

この扉は開いている。

@temkez?`

「物置部屋？」

lu lat-a xil al koo ras da os. son lu se-u pampank xa-e am is. ez tu it pis tin man temk it hem.

彼女は何回もここに入ったことはない。だから彼女は電灯のスイッチがどこにあるかさえ知らない。物置は狭いためこの部屋は暗い。

tsubaki as-i pank un xa-e atn omi kont left, lof-i ez rof. kato lu lof-el ilk koo man miv.

椿は跳びながら扉の近くにあるスイッチをつけ、散らかった部屋を歩く。そもそも子供だからあえてここを歩くことができる。

sle mav, koo et hin.

大人にとって、ここは狭い。

kat, id-ik felelen. sim os tal em-i besa da.

まず、学習机が見えた。古くはないがたくさん埃をかぶってる。

kes, xta / melk vort / bus lid / teak lid / rakon besa, fak eemkov da. im tu, lu lok-ik es eli dep-e lu lat-e al ez tu. koo et lami man save e eemkov et-el xop sod.

次に、箪笥、止まった時計、壊れた陶器、壊れたビデオ、埃をかぶった家具、そして多くの段ボール箱。その時、彼女はなぜエリがこの部屋に入ることを禁じたか理解した。ここは段ボールの雪崩が容易に起こりうるから危険なのだ。

hel / nak @populi{ koo et lami!`

思い出し驚く「ぽぷり！ここは危ないわ！」

lu in-i mes, sak-i populi kaen elen besa.

彼女は周りを見、埃をかぶった机の上のぽぷりを見つける。

populi left-i loa il eemkov al eemkov alt, lev-i atn bal.

ぽぷりは器用に段ボール箱からほかの段ボール箱に跳び、天井の近くにたどり着く。

@lami, populi! mef-al`

「あぶない、ぽぷり！降りて」

tsubaki left-i kak populi zan dal-i lu.

椿は彼を助けるためにぽぷりと同じように跳ぶ。

son on koo xa-e ul janbol. hin os.

するとここにロフトがある。狭くない。

on looz xa-e ul xe alat nifl et-el niak.

端に梯子をかけられる何かがある。

koo et pon alen raesez in.

ここは屋根裏部屋への道らしい。

lu in-i bal. son max alen raesez xa-a bal.

彼女は天井を見る。すると天井に屋根裏部屋への穴がある。

lu lev-el tu ol kna-i tak in. tal rob xa-i ha max min lu id-el vaik ye is.

彼女は腕を伸ばせばこれに届けるようである。しかし、穴の上にふたがあり、そのため彼女は少しの部分しか見えない。

dovparp it lat il max tu. tems xa-e raesez in.

夕日の光がこの穴から入る。屋根裏部屋に窓があるようだ。

im tu, rom, kets mef-ik il jixi e max tu, nak-ik lu.

その時、突然、猫がこの穴の隙間から降りて、彼女を驚かせた。

populi, lu ke-an raesez var jixi tu in.

ぽぷり、彼はこの隙間を通って屋根裏部屋に行っていたようだ。

tsubaki flox-i lu. lu it ma pal vao.

椿は彼を持ち上げる。彼はさらに白くなっている。

git @ti axo-a ka koo sete, populi`

追求「あなたはここで遊んだでしょう、ぽぷり」

@uniC#`

「うにぃ……」

sm, sm. tsubaki in-i jixi haen nan. tsubaki na-i meldif man parp har un sol-i tsubaki ev-il ma rob.

くすくす。椿は自分の上の隙間を見る。椿に蓋をどけさせたくならせる赤い光のために椿は恍惚を覚えた。

tal tu et dad al miv.

しかしこれは子どもには重い。

@dadC, tee,an ev-ul tu. passo, an ret-o yayoi liij / youta sou dal-i an im foo`

「重い、だめ、私はこれをどかせられない。いいわ、明日弥生ちゃんと陽太君に私を助けてくれるように頼もう。」

son tsubaki maim-i al belulu, alfi ov-i pilas al aam, kna-i patak kor jan ok taji kna. yan lu ku-ik,

するとペルルのポーズ――つまり左手を腰回りに置き人差し指を伸ばした右腕を空に向けてのばす――をとる。

@ilpasso sete, pelulu!`

「全然大丈夫でしょ、ペルル！」

lu soo-e kont os-i tu et daat. lu et ank / lijm tal lu besa imen tiz it ank vae.

彼女はこれがかっこいいと考えながらそうした。彼女は可愛くあどけないが今の埃まみれの彼女は可愛さを減じている。

@er? an tan it pal. teen, eli jik-o an man an ext-a sab, lat-a al ez tu ek dop`

「えぇ？私も白いわ。やだー、私が服を汚して許しもなくこの部屋に入ったから、エリが私を叱るわ」

son lu nek-i sab ext al eexermixp, sad-i sab, hem-i omi e temkez.

すると彼女は洗濯機のかごに汚れた服を隠し、服を着替え、物置部屋の扉を閉める。

※eexermixpはeexar\mixp(洗濯機・籠)だろう。

@passo, ilpasso` lu maim-i al pelulu.

「大丈夫、全然大丈夫」彼女はペルルのポーズをとる。

tal si fei fou, eli ked-ik ra, isk, git-i al tsubaki on es lu sad-in sab. vol tsubaki un kond-i populi al tolk jok-ik yu.

しかし二、三分後、エリは家に帰って、すぐ、椿になぜ彼女が服を着替えているのか追求した。そして腿の上にぽぷりを乗せた椿は叱られた。

pin, tsubaki am-ik eli xakl-u lu lat-a al ez li man tusubaki ku-a fie del nan ke-a sokl.

ただし、椿が自分は公園に行ったという嘘を言ったため、エリは彼女があの部屋へ入ったことを気づかないでくれた。

tsubaki : nae 4

椿：第四章

foar it-ik as. yan tu ont-ik tsubaki omo un skin-in al fosk un mes-e teik ka salez.

呼び鈴が鳴った。そしてそれは居間でテレビを囲むソファーに座っている眠たい椿を急かした。

foi et foo e sec imat tsubaki lat-a al ez li.

今日は椿があの部屋に入った日の翌日である。

foi, tsubaki ku-in al yayoi / youta tot foa, ret-in dal. laso ons-a tsubaki ek jik kont na-i lol tin.

今日、椿は昨日のことについて弥生と陽太に話してあり、助けを頼んである。彼らは体操興味を感じながらためらいなく椿に了承した。

si davi, tsubaki ked-a ra. yan luso mek-a tsubaki kon foar. ya, tu et tiz.

昼食の後、椿は家に帰った。そして彼らは呼び鈴で椿を起こした。そう、それが今である。

@vat, an hom-ip`

「まって、今開ける」

si kez-a omi, in-a luso, tsubaki na-u ma lik.

扉を解錠した後、彼らを見て、椿は寂しさを感じなくなった。

@kekko`

「さぁ」

son youta sib-i lasl. yan yayoi sakr-i tu / e nan

すると陽太が靴を脱ぐ。そして弥生がそれと自分のを揃える。

@hai, temkez potk et am, tsubaki?`

「ところで、例の物置小屋はどこだ、椿？」

@lii epn, bol 2. ketta, tiso`

「廊下の奥、二階。さぁ、みんな」

im jet-i al luso, tsubaki os-i es luso sab-in vavsab. son lu asm-i. son luso ism-i man nan jok-o yu ol ext-a sab. haan, mon tsubaki ku-a al luso ka felka on nan jok-a yu man ext-a sab. alfi, tsubaki sten-i in man lu nav-u sab.

彼らに案内をしているとき、椿はなぜ彼らが体操着を着ているのかと考えた。だから彼女は聞いた。すると彼らは服を汚したら叱られるからだと答えた。なるほど、確かに自分が服を汚したから叱られたことを椿は彼らに学校で話した。つまり、椿は服を気にしないため反省していないようだ。

si naf, lev-ik sa omi liien epn. tsubaki as-i gagoho.

階段の後、廊下の奥の扉の前に着いた。椿は咳払いをした。

@koo`

「ここよ」

@lee, anso lat-ix xan al koo eyo`

「ねぇ、私たちは本当にここに入っていいのかしら」

@passo# ix. tu eks-e tu rest-e save e eemkov`

「大丈夫……たぶん。それはそれが段ボールの雪崩に左右されることを意味するわ」

@ep#?`

「えっ……？」

ez tu it pis kak foa olta tiz it pen is.

この部屋は今が三時なのにもかかわらず昨日と同じく暗い。

@axxo` tsubaki left-i me zan pampank.

「よいしょ」椿は電灯のスイッチをめがけて再び跳ぶ。

len, ez tu it besa tin kak foa.

やはり、この部屋は昨日と同じくとても埃っぽい。

@waa, soono! ala ez ext etta!`

「わぁ、どうも！なんて汚い部屋じゃないか！」

@mm# besa da sete`

「う～ん……埃がいっぱいでしょ」

ya, tsubaki xam-i luso.

うん、椿は彼らに賛同する。

@hai, rob un despa-e raesez et am?`

「ところで、屋根裏部屋をふさぐふたはどこだ？」

@koe. il elen li al eemkov. si tu, janbol hin os xa-e`

「あそこ。あの机から段ボール箱へ。そのあと、狭くないロフトがあるわ」

kont ku-i soo, tsubaki left-i al elen.

そう言いながら、椿は机から跳ぶ。

xina, luso tan et axk al vav ento luso lev-el xop janbol. hao, save u.

幸いにも、彼らも容易にロフトに着けるほど運動が得意である。もちろん、雪崩はない

kak foa, divparp it lat il jixi li.

昨日と同じく、あの隙間から夕陽が入っている。

@in? do lat-ul al koe var jixi tu ovi populi`

「見て？ぽぷり以外誰もこの隙間を通ってあそこに入れないわ」

yayoi, nod @tea #`

弥生、頷き「そうね……」

tsubaki xakl-i nan in-un populi im foi. tal vinsa, lu in-i youta.

椿は今日ぽぷりを見ていないことに気がつく。しかしともかく、彼女は陽太を見る。

@ya, ketta, anso lat-ax las al jixi, ev-ax rob, ya?`

「うん、さぁ、おれたちは隙間に手を入れて、ふたをどかそう、いいか？」

kont ku-i tu, youta lat-i las al jixi. tsubaki / yayoi tan so-i kak youta. yan luso ev-ik rob mesa xop til tsubaki so-ula im foa.

こう言いながら、陽太は隙間に手を入れる。椿と弥生も陽太と同じくする。そして彼らは昨日椿が外せなかったけれどたやすくふたをどけた。

@ya! an it lam!`

「よし、おれ一番！」

youta lat-i al raesez

陽太が屋根裏部屋に入る。

@koo# raesez`

「ここ……屋根裏部屋」

tsubaki na-i zal. im kat, lu es-i koo et ext / lant.

椿は不思議に感じる。初めに、彼女はここが汚く美しいと思った。

besa da xa-i koo kak ez hi. tal eemkov / xet u xa-i koo.

多くの埃が下の部屋と同じくここにある。しかしここには一つも段ボール箱とゴミがない。

on koo xa-i ul kov un xa-i looz e ez. fak mivlets / loob / sab sim. yan kov tu iv-e rob. tu et axokov in.

ここには部屋の隅にある箱がある。さらに子供用ピアノと帽子と古い服。そしてこの箱には蓋がない。これは玩具箱のようだ

tsubaki es-i koo van ez hi et han man di xa-i koo.

椿はここはものが少ないからここのほうが下の部屋より広いと思った。

fak 2 raestems han xa-e koo. pin, tu av-i besa da man u oxt-e tu.

さらに二つの広い天窓がここにある。ただし、誰もこれを掃除しないのでこれには多くの埃が付いている。

@paa il jaxi im sakt ket-a il raestems lise aa. koo av-i besa da. tal ot ma lant tinkaa ol oxt`

「さっきの隙間からの光はあれら天窓から来たのか。ここはほこりだらけだ。でも掃除すればものすごくきれいになるだろうなぁ。」

yayoi wik-i al youta

弥生は陽太にうなづく

@an yol-il koo lex nekasra`

「おれはここを秘密基地に使いたいぜ」

@tee, eli luu jok-o ti`

「だめ、エリさんがあなたを叱るわ」

@passo, passo, ol nek, kok?`

「大丈夫、大丈夫、隠れれば、だろ？」

@ti#`

「あなた……」

kont tet-i al luso, tsupaki atn-i al axokov.

彼らに構わず、椿はおもちゃ箱に近づく。

@e ne eyo#`

「誰のかしら」

lu tid-i xe il tu. paln / diag / lent wen. xe sezn da. tuse et ix axokon em eli afat-a il tsubaki un ref-u axokon im mivnan. tal, kato, lu hel-u tu.

彼女はこれから何かをつかむ。横笛、ビー玉、人形など。多くの脈略ない何か。これらは幼稚園のころ玩具を片づけない椿からエリが取り上げたおもちゃかもしれない。しかし、それにしても、彼女はこれを思い出さない。

tsubaki fitl-i axokon al kov. lu eafat-il tu tal eli se-o tsubaki lat-a al koo ol soo.

son lu enav-i tu ok sern.

椿は箱におもちゃをしまう。彼女はこれを回収したいが、そうしたらエリが椿がここに入ったことを知るだろう。だから彼女は思いつきでこれをあきらめる。

@weiC, tsubaki, ti na-i kax im tiz man ti in-a koo, ya? son mef-ax al hi`

「おい、椿、ここを見たからお前は今満足してるか？なら下に降りよう」

lu eel-i la kont sok. yan lu xakl-ik kets pal hien nan.

彼女は返事をしながら彼に振り返った。そして彼女は自分の下の白い猫に気付いた。

@populi, ti xa-in koo sete. tee, eli jok-o me ti, lok?`

「ぽぷり、あなたはここにいたのね。だめよ、エリがまたあなたを叱るわ、わかった？」

tsubaki flox-i populi un xiv-i pes yun.

椿は名残惜しそうに鳴くぽぷりを持ち上げる

@ti mok-a ka koo man parp ilen raestems et esa tin seteB, populi`

「天窓からの日の光がとても気持ちいいから貴方はここで眠ったのね、ぽぷり」

don yun @uni`

肯定するように「うに」

tsubaki in-i laso. yayoi mef-in moa al hi. yan youta tan mef-is. tsubaki na-i kax man se-ik zan e populi / raesez lant.

椿は彼らを見る。弥生は既に下に降りている。そして陽太も降りようとしている。椿はぽぷりの目的と美しい屋根裏部屋を知ったので満足している。

kit, lu in-i mes

終わりに、彼女は周りを見る

&xo&

―だれか―

@ep{`

「えっ？？」

^xo# xa-i{~

（だれか……いる？？）

ont, tsubaki in-i mes. mon, lu id-ik xo im tiz, ya, xo ka raesez.

急ぎ、椿は周りを見る。確かに、彼女は今誰かが見えた、そう、屋根裏部屋にだれか。

^u xa-i#. son la at dia eyo#~

（誰もいない……。するとあの人は幻かしら……）

si tu, tsubaki aso-i ok luso kelk im saen 30 fei via imat eli ked-o ra.

この後、椿はエリが家に帰る三十分ぐらい前の時間まで彼らと遊んだ。

tsubaki na-u pels im axo. tal si luso ked-a ra, lu na-i ma pels. tiz it-is moa pis.

椿は遊んでいるとき心配を感じなかった。しかし彼らが家に帰った後、彼女は悩みを感じるようになった。今は既に暗くなりつつある。

mon, lu in-a xo ok nan. tal xo lu xi-ak si foni.

確かに、彼女は自分とともに誰かを見たのだ。しかしこの誰かは一瞬あとにはいなかった。

^mm# mon an in-a xo aan~

（う～ん……確かに私は誰かを見たんだけどなぁ）

tsubaki flox-i populi un atn-ik al lu, fip-i populi.

椿は彼女に近づいたぽぷりを持ち上げ、ぽぷりを拭く。

yan lu tist-i al populi kont vais-i

そして彼女は見つめながらぽぷりにつぶやく

@ti tan in-a la sete?`

「あなたもあの人を見たでしょう？」

tal kets dio-i daxm hen ist ism

しかし猫は答える代りに柔らかいタオルを噛んだ。

laz : nae 2

少女：第二章

tist @ox, me#`

小声「もしかして、また……」

populi sake-i al laz kont ism-i xe al lu yun.

ぽぷりは彼女に何かを答えるように彼女を導いてるようだ。

laz kol-in xe, alfi populi at ma pal ar kak tu im xe, fak amalis li.

少女は何かを、つまりいつかぽぷりがこれと同じように真っ白になったこと、加えてあの思い出を覚えている。

laz hel-is xe. xe# em hel-ah.

少女は何かを思い出しつつある。何か……思い出さなければならないこと。

populi lit-i il ez, lof-i epn, lat-i al jixi e omi e temkez.

ぽぷりは部屋から出て、廊下を歩き、物置小屋の扉の隙間に入る。

^es omi it hom eyo~

（なぜ扉が開いているのかしら）

laz hom-un tu. im tiz, u xa-i ra tu kiv laz.

少女はこれを開けていない。今、少女以外この家に誰もいない。

kont na-i nil, laz lat-i al ez tu.

不安を覚えながら、少女はこの部屋に入る。

pot it mi rof. eemkov da / besa da / rakon sim wen.

中は散らかったままである。多くの段ボール箱、多くの埃、古い家具など。

laz in-i janbol

少女はロフトを見る。

@an kol-in lat al raesez xa-e ha koe`

「私はあそこの上に屋根裏部屋への入口があることを覚えている」

son lu atn-i al janbol, bik-i looz, mof-i al janbol.

すると彼女はロフトに近づき、端をつかみ、ロフトに上る。

hah, lu as-i nian. janbol tu et fam ento otn-a mof e la.

はぁはぁ、彼女は休む。このロフトは彼女が上ることに耐えたほど丈夫である。

laz in-i lat e raesez. jixi xa-i koo. yan parp ket-i il koo. populi lat-a il koo in.

少女は屋根裏部屋の入口を見る。ここに隙間がある。そしてここに日の光が来る。ぽぷりはここから入ったらしい。

laz in-i populi un ket-in toim koo. yan lu left-is jixi.

少女はいつの間にかここに来ているぽぷりを見る。そして彼女は隙間に跳ぶ。

xi tu, laz lat-i las al jixi, ev-i rob.

この後、少女は隙間に手を入れ、ふたをどける。

diin, lu ke-il isk raesez man lu asp-ah kin ka xei koo man koo et hait al bal.

とにかく、彼女はここは天井が低いから彼女はここではつらくしゃがまなければならないので、屋根裏部屋にすぐ行きたかった。

laz lat-i al raesez il max lad.

少女はできた穴から屋根裏部屋に入る。

@waa, de it mi`

「わぁ、みんな変わってないわ」

bol besa / kla kas / 2 raestems, fak devpar em in-el il koo.

埃っぽい床と参画の空間と二つの天窓、さらにここから見える夕日。

ras tola, par lov-a koo, lev-a koo, ya, ras tola sei.

幾度、太陽はここから去り、ここに着いたのか、そう、幾度なのだろう。

si na-a rien al devpar lant du fon os, laz lof-i / in-i ez man lu na-i hel-el ox xe ol soo.

しばし美しい夕日に陶酔を覚えた後、少女は部屋を歩き眺める、もしかしたらそうすれば何かを思い出せると思ったからである。

vex, laz in-i vaik e bol alat parp har il raestems it nox.

おもわず、少女は天窓からの赤い日の光が集まる床の一部を見る。

tsubaki : nae 5

椿：第五章

tsubaki mok-ul. im div e foi, mon lu in-a xo.

椿は眠れない。今日の夕方、確かに彼女は誰かを見た。

kat, lu os-a tu it dia tal os-i tu ut dia is.

まず、彼女はこれが幻だと考えたがこれは幻なんかではないと考えた。

tiz it map rik kon. lu mek-in nev soo il sic 12, sec 31. lu lat-a al mokt im skol.

今は既に零時前である。彼女は十二月三十一日からそのように遅く起きている。彼女は普段どおりベッドに入る。

tal lu hel-a vex xo la im lu mok-ip.

しかし彼女が眠ろうとした時、彼女はふとあの誰かを思い出した。

lu na-i vem os tal lol leva. yan tu dil-i mok.

彼女は恐れでなく純粋に興味を覚えた。そしてそれは眠りを妨げた。

mikt it af man lu xa-in koo du fon, fak miv et af. yan afatin tu dil-i mok. tu et aitkekt.

ベッドは彼女が長いあいだここにいたので熱く、加えて子供は熱い。そしてこの暑さは眠りを妨げる。これは悪循環である。

tsubaki lit-i il mokt, geks-i flot.

椿はベッドから出、掛け布団をひっくり返す。

son mokt it ma of. zan vat-i tu, tsubaki lit-i il ez. yan lu yol-i kot beek man fonl-o avexbena.

するとベッドは涼しくなる。これを待つために、椿は部屋から出る。そして彼女はおもらしを避けるためトイレに行く。

※avexbenaという単語はないが、aven(悪夢)とbena(おしっこ)ではないか。

si beek, lu na-i ef ye im olx-i las, ked-i isk bol 2. tal koo it mi af kok hibol.

トイレの後、彼女は手を洗う時少し寒さを感じ、すぐに二階に戻る。しかしここは下の階と違って熱いままである。

tsubaki na-i ind. eli del laa / yuuitsi del lai mok-in moa sa fon ka ez mox.

椿は疲れを感じた。母エリと父雄一は隣の部屋でずいぶん前にもう眠っている。

tsubaki ku-el milx@an mok-ul` al lau too tiz ut nev soo.

今がそんなに遅くなければ椿は両親に「眠れない」といえるのに。

tsubaki na-i pels sa ez e nan. son lu os-it nan mok-ul man xo la. lu mok-ul olta mokt it of kelk lu se-o la et ne.

椿は自分の部屋の前で心配を感じた。だから彼女はあの誰かのせいで自分が眠れないと考え始めた。彼女があの人が誰かを知るまで例えベッドが冷えても彼女は眠れない。

ketta, tsubaki ke-i temkez. ya, ke-i minx.

さぁ、椿は物置小屋に行く。そう、気付かれないように。

lu hom-i liv omi. tal fo ye it sod sin.

彼女は静かに扉を開く。しかし少し音が起きてしまった。

lu lind-i lau it mek. tal soo os ten.

彼女は両親が起きることを心配した。しかしそうならなかったようだ。

tsubaki na-i pes man lu xet-i lind tu too lu hem-au omi.

椿はもし彼女が扉を閉めてなかったらこの心配は不要だったので後悔した。

kak tiz, lu hem-i liv omi, as-i pam. vol ez it ma rom div

今と同じく、彼女は扉を静かに閉め、電気をつける。すると部屋は突然昼になる。

yan tsubaki na-i kamp tin, nek-i eel kon las.

そして椿がとてもまぶしさを感じ、手で顔を隠す。

si tu, lu in-el ma ez un it mi kak sakt.

この後、彼女は先ほどと同じように変わってない部屋が見えるようになる。

yan lu na-i zal man ez tu et mi im de tet dav / dev.

そしてこの部屋が朝も夜も関係なくいつも変わらないので彼女は不思議に感じた。

son tsubaki na-i ome, os-i ma tiz it div.

だから椿は目が冴え、今が昼だと考えるようになった。

kond-i al elen sim, il eemkov al janbol. son mof-i al raesez. yan lev.

古い机に乗り、段ボール箱からロフトへ。そして屋根裏部屋へ登る。そして着く

@wa, lant#!`

「わ、きれい……！」

koo von hibol it pas tal koo it lant tin man xelp.

ここより下の階のほうが明るいが、ここは月明かりでとても美しい。

il raestems, jan pil / virtes. rak teks, tu et lant tin til besa da. tal tu et tei. xan, besa u xa-i tems.

天窓から、黒い空と青白い月。窓の向こうで、それは埃が多いにもかかわらずとても美しい。しかしこれは間違いである。実際、窓には全く埃がない。

es? man tems it hom.

なぜ？窓が開いているからである。

me@lant`

再び「きれい」

im tu, xo xiv-i @xam`

この時、誰かが「まったくね」と声を発した。

tsubaki in-i rom lu kont na-i nak tin. son laz xo xa-i hi xelp.

椿はとても驚きつつ突然この人を見る。するとある少女が月明かりの下にいる。

lu sab-in sala pal / gao / lus hir un lev-en nist / miil har / tas kaen aad / 2 fot un et yolp.

彼女は白く先が広がったシャツ、膝に届く青いスカート、腰の大きな赤いリボン、サスペンダーである二本の紐をつけている。

@ti et ne, luu?`

「あなたは誰、おねえさん」

mav yen-e kono tal miv. son tsubaki asm-ik tu.

大人は常識的にふるまうが子供はそうでない。だから椿はこう尋ねた。

kato, lu os-an xo xa-i koo. son lu na-i ref.

そもそも、彼女はここに誰かいると考えていた。だから彼女は冷静だった。

hi xelp@an? an et artan`

月明かりの下「私？私は魔法使い」

@ti et artan sete? luu`

「あなたは魔法使いなの？お姉さん」

wik ent@ya`

ゆっくり頷き「ええ」

@fio? ti met-a il am?`

「本当？あなたはどこから落ちてきたの？」

ji-i tems al tsubaki@il koe`

椿に窓を指差し「あそこから」

nask. lu et xan artan kik man u lat-el il koo ek art.

なるほど。誰も魔法なしにここからは入れないので彼女は本当に魔法使いのようだ。

pin, eftan so-el ix tal lu et ex tu in.

ただし、たぶん泥棒も入れるが彼女はそれではありえないようだ。

son tsubaki kaax-ik lu lex artan, na-i naft tinkaa.

だから椿は彼女を魔法使いと認め、ものすごく感動した。

@s# son ti kern-a il koo sete?`

「な……ならあなたはここから飛んだのでしょう？」

@ya, tea`

「ええ、そうよ」

@son uk an in-i du foni im div at ti sete?`

「なら私が夕方に一瞬見たのはあなたでしょう？」

@ya, an xa-a koo im li, alfi im ti ket-i koo ok yayoi liiz / youta sou`

「ええ、私はあの時ここにいたわ、つまりあなたが弥生ちゃんと陽太君と一緒にここに来た時」

nak, uk tsubaki in-i at artan! lu se-i est e laso man ix lu et artan. tsubaki soks-e artan. taak, lu et artan aat in.

なんと、椿が見たのは魔法使いであった！たぶん彼女は魔法使いだから彼女は彼らの名前を知っているのだろう。椿は魔法使いを尊敬した。さらに良いことに、彼女は良い魔法使いのようだ。

@hai, es artan xa-i ra e anso?`

「ところで、なぜ魔法使いが私たちの家にいるの？」

@man xelt lant oa in-el yu il ez tu loxt xial tu. yan an taf-i xelp man xelp fit-e cas al an. in`

「この部屋からこの街の中で一番美しい月が見られるから。そして月光は私に魔力を与えるから私は月光を得るの。見て」

artan kern-it liv al jan ken pikke.

魔法使いは手品を使わず静かに空へ跳び始めた。

@t#tinkaa! an in-ik lam art!`

「す……すごい！私は初めて魔法を見たわ！」

son lu nix-i al tsubaki.

すると彼女は椿に微笑んだ。

@lee, an tan as-el art eyo?`

「ねぇ、私も魔法が使えるかしら？」

@hao`

「もちろん」

@xan{`

「本当？？」

`ya do as-el art kon cas. yan do fat-el cas kax ol fat-i 4 na`

「ええ、みんなが魔力で魔法を使えるのよ。そして四つの心を得れば満足な魔力を得ることができるの」

@4 na?`

「四つの心？」

son laz mef-i al bol ek fo. yan lu alx-it tu kont kna-i ji.

すると少女は音もなく床に降りる。そして彼女は指を伸ばしながらこれを数え始めた。

@axte et lolna`

「一つ目は好奇心」

@ya, lok. son flea et?`

「うん、わかった。じゃあ二つ目は？」

@et otnna. yan alis et livrona. son xier et #`

「耐える心。そして三つめは生命の心。だから四つ目は……」

im tu, tsubaki tod-i fo e omi kaen hibol. ix lau xakl-a xiv e luso. vol tsubaki na-i hit / vem.

この時、椿は下の階の扉の音を聞く。たぶん両親が彼女らの声に気付いたのだろう。ゆえに椿は焦り、恐れた。

^sla ait~

（悪い状況）

tsubaki tod-i xo lof-is. ix, tu et eli. yan lu ke-ik hibol, alfi bol 1 ten. son tiz et kilm.

椿は誰かが歩いているのを聞いた。多分、これはエリだ。そして彼女は下の階、つまり一階に行ったようだ。だから今がチャンスである。

@ti lov-i?`

「あなたは去るの？」

@ya. a, nee, ti axo-al ok an im foo, luu`

「うん。あ、ねぇ、明日私と遊んで、お姉さん」

axo oken artan. tu et aat tinkaa sle tsubaki.

魔法使いとの遊び。これは椿にとってものすごく良いことだ。

@ya, passo`

「ええ、大丈夫よ」

lu ons-ik ek jik

彼女は淀みなく了承した

@fio? omt! son an ket-o me koo si felka im foo. # aa, div et passo?`

「本当？嬉しい！じゃあ明日学校の後でここにまた来るわ。……ああ、昼は大丈夫？」

@passo. tal tu et nekt sov anso, tsubaki liiz`

「大丈夫よ。でもこれは私たちの間の秘密よ、椿ちゃん」

@ep, son yayoi liij / youta sou ket-ixu sete?`

「えっ、じゃあ弥生ちゃんと陽太君は来ちゃいけないの？」

@hao, man tie an et artan tun et nekt sov anso hot. vel an xax-ul art al ti non?`

「もちろん、私が魔法使いだということは私たちだけの間の秘密だから。さもないと私はあなたに魔法を教えられないではないの？」

@haan, nask. son doova kelk foo`

「なるほど、わかったわ。じゃあ明日までさようなら」

tsubaki lit-ip il raesez im tu.

椿はこの時屋根裏部屋から出ようとする。

@a, ya, hel, an et aluha. aluha, est e an`

「あ、そう、思い出した、私は有葉。有葉、私の名前」

@ya, al diar, alha luu`

「うん、おやすみなさい、有葉さん」

si tsubaki lov-a koo, aluha un skan-in hi xelp tist-i lik

椿がここから去った後、月明かりの下で立っている有葉が寂しそうにつぶやいた

@ret, tsubaki#`

「お願い、椿……」

laz : nae 3

少女：第三章

vex, laz in-i vaik e bol alat parp har il raestems it nox.

ふと、少女は天窓からの赤い日光が集まる床の一部を見る。

xe it-in wax il jixi e siz e bol. laz atn-i al tu, vais-i tu.

何かが床の板の隙間から突き出している。少女はそれに近づき、それを観察する。

mini, ya, tu et mini wax kik jinz tis.

芽、そう、これは小さなケヤキのように突き出した芽である。

tu it-is tas hi parp har kiken eri

これは血のように赤い日の光の下で大きくなりつつある。

^tu et av man tu virt-el koo em besa da xa-i~

（これは多くの埃があるここで生きられるからこれは強いわ）

lu tenx-u tu man lu na-i zal. hao, lu so-i too tu et sezo.

彼女は不思議に感じたのでこれを摘まない。もちろん、これが雑草だったら彼女は摘んだだろう。

wak^tuB# et xe em an hel-ah~

首を振り（これ？……は私が思い出さなければならない何か）

lu lok-i u. mina tu is eks-e u sle lu. kato, lu hel-ah xan xe sei. tio lu os-i tei sei. son lu na-i els, lit-i il koo.

彼女は何もわからない。この芽など彼女にとって何も意味しない。そもそも、彼女は本当に何かを思い出さなければならないのだろうか。ただ彼女は思い違いをしているのではないか。だから彼女は憂鬱を感じ、ここを出る。

ka janbol hi, lu xakl-i yet xe. alfi, lu mef-ih ak al bol il janbol ok maim e easp. lu os-i da. tal left hot et tox aat. tal lu atn-i enz tik al bol yul kna-i tik. yan left. dina, met. pask met, lu na-i vem, ovn-i tak min lu niks-i eevkov sin.

下のロフトで、彼女はある問題に気がついた。つまり、床からロフトへ中腰の姿勢でどのように降りたらよいか。彼女はたくさん考えた。しかし跳ぶことだけが良い方法である。しかし、彼女は足を伸ばしてできるだけ床に足を近づけた。そして跳んだ。というより落ちた。落ちる途中彼女は恐れ、腕を動かしたので彼女は段ボール箱を倒してしまった。

@teeo`

「きゃー」

dosm e eemkov it-ik lit. saft xi-a tu.

段ボール箱の中身が出た。それにテープはなかった。

tal on sina et ul lu man save ut sod.

しかし幸いなことに雪崩は起こらなかった。

im tu, vex, lu sak-i 1 sel. tu xa-a eemkov ok semas.

この時、ふと、彼女は一枚の写真を見つける。これは書類とともに段ボール箱にあった。

@tu et to? sim tin aan`

「これは何？とても古いわねぇ」

lu in-i suc e sel un xa-i hipa sel. tu et sel saen 12 sac. on koo, xa-e ul yuuitsi del lai / eli del laa imen sam vao. fak, sov luso, fian xa-e kont nix.

彼女は写真の右下にある写真の日付を見る。これは十二年前の写真だ。ここに、さらに若いころの父雄一と母エリがいる。さらに、彼らの間に、ほほ笑む女児がいる。

luso sel-a tu sa lislat e ra xe in.

彼らはこれをどこかの家の玄関の前で撮影したようだ。

@fian sov lu et# an os mon. son lu et miv e atnra eyo`

「彼の間の少女は……明らかに私ではない。なら彼女は近所の子供かしら？」

lu se-e nan et noa nev un lap-i yu tin.

彼女は自分がはなはだ望まれた遅い娘だということを知っている。

lau se volx-a nou e alt ist nou e nan. son lu na-i naft.

両親たちは自分の子の代わりにほかの子を大切にした。なら彼女は感動する。

mon, atnraan hasm ku-a al lu on lau e lu axo-a ok laso san.

確かに、年上の近所の住民は彼女に彼女の両親は彼らと遊んでくれたと言った。

son, rom, laz in-il ma sesel zan hel-o taz, ke-i bol1. alt, par it-ik ar nek. yan dev it-ik kat.

すると、突然、彼女は過去を思い出すためにアルバムを見たくなり、一階に行く。一方、日は完全に隠れた。そして夜が始まった。

tsubaki : nae 6

椿：第六章

tipn @tu et nekt`

おどけて「これは秘密よ」

tsubaki ku-i tu al yayoi / youta ka saim.

椿は教室で弥生と陽太に言った。

son luso nav-u ma axo oken tsubaki im foi. tsubaki na-i ye pent tal lu pini-eh artan foa del aluha.

すると彼らは今日の椿との遊びにこだわらなくなった。椿は少しすまなく思ったが彼女は昨日の魔法使いである有葉との約束を破るわけにはいかなかった。

tsubaki axo-ul ok luso kelk aluha xax-ok art.

椿は有葉が魔法を教え終えるまで彼らと遊ぶことはできない。

si xax, aluha xax-u ma art al tsubaki, alfi lu nekt-el nan et artan il yayoi / youta.

教えた後、有葉は椿に魔法を教えなくなる、つまり彼女は弥生と陽太から自分が魔法使いだということを秘密にすることができる。

@pent, an tapk-o im xe`

「ごめんね、いつか説明するわ」

son luso nask-i tsubaki, lov-ik.

すると彼らは椿に納得し、去った。

tsubaki ked-i vad tin ra, pip-i felxob al pofa, ke-i raesez ek sabsad.

椿はとても早く家に帰り、ランドセルをクッションに投げ、着替えもせずに屋根裏部屋に行く。

pask, lu lind-i la ket-u lu. ol li at dia? or li at tio lond? son lu na-i kin ye.

途中で、彼女はあの人が彼女のところに来ないことを心配した。もしあれが幻だったら？またはあれはただの夢だったら？だから彼女は少しつらかった。

tist @ilpasso sete, pelulu!`ku-ik zan set-i lind.

小声「大丈夫でしょ。ペルル！」心配をかき消すために言った。

lu lat-i al ez kont “lap-i” al pelulu. yan lu in-i laz un sab-in sab kak alen foa xa-i hi raestems, &aluha. mon, lu et xab.

彼女はペルルに「願い」ながら部屋に入る。そして彼女は昨日までと同じ服を着ている少女――有葉が屋根裏部屋の下にいるのを見る、確かに、彼女は現実である。

lef@aluha luu`

走って「有葉さん」

nix@soonoyun, tsubaki liiz`

ほほ笑み「ごきげんよう、椿ちゃん」

tsubaki es-i ez tu et dam al laz knoos ova aluha.

椿は、この部屋はたとえば有葉のような謎の少女にふさわしいと思った。

lu kaax-ik koo et kla e aluha.

彼女はここが有葉の空間であることを認めた。

@ti tol-ik pina san`

「あなたは約束を覚えてくれたのね」

@ya, an ens-a yayoi liij / youta sou tol pina`

「うん、私は約束通り弥生ちゃんと陽太君を断ったわ」

@son, anso wa tolx e art!`

「それでは、私たちは魔法の練習をしましょう！」

@ya!`

「やった！」

aluha fat-i mas il jan

有葉は空から紙を取る。

@wao!`

「わっ！」

@tu et mas e na`

「これは心の紙」

@mas e na?`

「心の紙？」

@an nab-i paa al mas pal tu il tiz`

「私は今からこの白い紙に光を塗るわ。」

@nab-i # paa?`

「光を……塗る？」

tsubaki tok-i po kont os-i do nab-e paa os tal nim al mas.

椿は皆は光でなく色を紙に塗ると考えながら首をかしげる。

@ya, an nab-i paa e na al mas tu`

「ええ、私は心の光をこの紙に塗るの」

@na, tu et na liB del ti tapk-a im foa`

「心、これはあなたが機能説明したあの心？」

@ax, ti kol-in aat, tsubaki liiz.

「はい、あなたはよく覚えているわ、椿ちゃん

axte et lolna. paa et har. tu eks-e lap / vosk.

一つ目は好奇心。光は赤。これは願いと努力を意味するわ。

flea et otnna konat ti otn-e dapit. yan paa e tu et hir.

二つ目はあなたが色々なことを耐えるのに使う耐える心。そしてこれの光は青。

yan alis et livrona konat ti flon-e dapit tot ladl kaven kam, kim wen . yan paa et hor.

そして動物や植物を含む自然についてあなたがいろんなことを思慮するのに用いる生命の心。そして光は緑。

son ti aj-el ma paanim de kon 3 paa tuse`

だから貴方はこれら三つの光で全ての光の色を示せるようになるの。」

hak@tinkaa}`

ほめて「すごい～」

@son ti xak-al jan ilen raestems kon mas tu`

「だから貴方はこの紙で天窓からの空を描きなさい」

lu sef-i mas e na. son tsubaki hem-i ins, xak-i jan kon kol / na hot. kol / na it okt al mas.

彼女は心の紙を渡す。すると椿は眼を閉じ、記憶と心だけで空を描く。記憶と心が紙に伝わる。

tsubaki hom-i ins, sak-i xak.

椿は芽を開き、絵を見出す。

tu et harjan til tiz ut dov.

これは今は夕方ではないのに赤い空である。

@tua`

「どうぞ」

@haan, an os-i lolna et tin oa tot ti man ti sak-a an del artan. ya? hel, dovpar et har. yan lolna et har. ya, lok, fatoo, tsubaki liiz`

「なるほど、あなたは私と言う魔法使いを見つけたから貴方は好奇心が最も強いと私は考えるわ。いい？ほら、夕日は赤。そして好奇心は赤。そう、わかった、お疲れ様、椿ちゃん」

@son, an as-el art kak tiB ova kern-e jan`

「じゃあ、私はあなたと同じようにたとえば空を飛ぶような魔法が使えるの？」

si foni @ti as-el ma art ol ti kokko-i paa. ti xat-i hir / hor ye zan kern is`

一瞬後「あなたが光のバランスを取れば貴方は魔法が使えるようになるわ。あなたは跳ぶためには少し青と緑が必要よ」

@son kalk foi, an olx-e tap las. fak otn-e xon-u xia!`

「それじゃ今日から、私はちゃんと手を洗うわ。あとお菓子を食べないことに耐えるわ！」

nix@sm, ya`

ほほ笑む「ふふ、ええ」

@tal, an os-i ti otn-ah lik, ya, ix`

「でも、あなたは寂しさに耐えなければならないと考えるわ、ええ、多分」

dint@lik #`

暗く「寂しさ……」

@tal tiz ut im dam. son ti lind-ahu tu. im tiz, ti xat-i tie nan tol-i laa tun hot`

「でも今はふさわしい時じゃないわ。だから貴方はこれを心配する必要はないの。今、あなたは自分がお母さんの言うことを聞くことだけが必要だわ。」

@ya, nask. son tot hor?`

「うん、わかった。じゃあ緑は？」

@hor et passo. in`

「緑は大丈夫。見て」

aluha ji-i hivaik e xak em ezo xa-e

有葉は森がある絵の下部を指差す。

@ya, ya, nal}`

「うん、うん安心した～」

@son im tiz, ti xat-i hir hot. atte, tsubaki liiz!`

「だから今、あなたは青だけが必要よ。頑張って、椿ちゃん！」

wik tin @ya!`

激しく頷き「うん！」

yan luso axo-i ok xok kelk eli ked-o ra im dov.

そして彼女らは夕方にエリが家に帰るまで一緒に遊んだ。

aluha et nat / daj, ut ar artan vem. lu se-e axo dapit ova arkans. fak lu se-e pelulu fiin as. len lu et artan.

有葉は優しく親切で、恐ろしい魔法使いでは全くない。彼女はジャンケンのような色々な遊びを知っている。さらに彼女はペルル少年さえ知っている。やはり彼女は魔法使いである。

si sec tu, tsubaki axo-i ok lu ras da.

この日の後、椿は何度も彼女と遊んだ。

tal im sec xe, tsubaki hem-u kel nimt omi e temkez. taik eli xakl-i tu, se-i tsubaki lat-a al koo.

しかしある日、椿は物置小屋の扉をうっかり閉め忘れる。さらに悪いことにエリはこれに気付き、椿がここに入ったことを知った。

son tsubaki jok-i yu lu.

だから椿は彼女に叱られた。

@ti vix-o yu ol eemkov it vern al ti!`

「もし段ボール箱が貴方に崩れたら、あなたは怪我するわ！」

@son ti ev-al xet zan vind-i an`

「じゃあ私を守るためにゴミをどけて」

@li ut xet. son an ev-ul li. ya, il tiz, ti lat-oc ax al ez li, nask{`

「あれはゴミじゃない。だから私はあれをどけられないの。いい、今から、あなたは絶対にあの部屋に入ってっちゃだめよ、わかった？？」

@# ax`

「……はい」

@taik, ti lat-a al raesez sete. ti vort-o ox ol ti met-i il janbol, ya{`

「さらに悪いことに、あなたは屋根裏部屋に入ったでしょう。あなたがロフトから落ちたら、あなたは死ぬかもしれないのよ、いい？？」

eli tak-i tsubaki, bad-i ipk e lu ente lu ena-it.

エリは椿を抱き、彼女が泣きそうになるほど彼女の尻を叩く。

tal tsubaki nisk-i eli un lik-i tsubaki. tsubaki na-e lik man eli. taik lu afat-i hacn as! taik, tsubaki na-i eland tin man tu fast del

しかし椿は椿にさみしい思いをさせるエリに納得しなかった。椿はエリのために寂しい思いをしているのだ。さらに悪いことに彼女は友人さえ奪ったのだ！さらに悪いことに、椿は簡潔なこの初便のために深い失望を覚えた。

@anso monk-o ox. ol soo, son ti akt-ul ma yayoi liij / youta sou. # pentant`

「私たちは引越しするかもしれないわ。そうなったら、あなたは弥生ちゃんと陽太君とあえなくなるわね。……ごめんなさい」

yan lu lad-i kot dave ka belka.

そして彼女は台所で晩御飯を作りにいく。

&monk

――引越し

vet tu it daks ka isn. ol soo, son lu akt-ul ma yayoi/ youta, fak aluha.

この言葉が頭で繰り返す。そうならば、彼女は弥生と陽太、さらに有葉とあえなくなる。

lu rakm-in nol / ban ok aluha du soot fou.

彼女は二、三週間の間有葉と幸福に楽しく過ごした。

yan im tu, tsubaki san-a tin ma aluha il fiona.

そしてこの時、椿は心から有葉を大好きになった。

ixta e artan un et nat / knoos, sab-en miil tas / har al aad it rom men.

優しく謎めいた、腰に赤い大きなリボンをつけた魔法使いの光景が急にぼやける。

yan si dave, sa mok, lai ku-i dint xe tot monk al tsubaki. son lu ke-it raesez dep zan, hao, akt-i artan em nan san-e tin.

そして晩御飯の後、寝る前に、父が椿に引越しのことについてあることを陰鬱に話す。だから彼女は禁じられた屋根裏部屋に行き始める、もちろん、自分が大好きな魔法使いに会うために。

tsubaki otn-i omo al konoote, sain-i lau se mok-in, ke-it raesez.

椿は零時まで眠気に耐え、両親たちが眠っているのを確かめ、屋根裏部屋に行き始める。

laz : nae 4

少女：第四章

son, rom, laz in-il ma sesel zan hel-o taz, ke-i bol 1.

だから、急に、少女は過去を思い出すためにアルバムを見たくなり、一階に行った。

sesel em-e sel e laz duen 12 sac. laz hel-i taz kont in-i sel xe. lu av-u etu. son davaik e sesel et sel e lu. kuim, sel saen laz vart-o xa-e am sei. lu bik-i flei, tal lu sak-i sel e macswai / macskeks wen hot. sel sam oa saen laz vart-o at as sa 12 sac as. tu et sel e ketiwain. luso sab-an ailsab. ix, luso ret-a xo sel-i luso.

アルバムは十二年間の少女の写真を持っている。少女はある写真を見ながら過去を思い出す。彼女に兄弟はいない。だからアルバムの大部分は彼女の写真だ。そういえば、少女が生まれる前の写真はどこだろう。彼女はページを戻すが、彼女は結婚式と新婚旅行などの写真だけを見つける。少女が生まれる前の最も新しい写真は十二年も前に撮影された。これは夏祭りの写真である。彼らは普段着を着ていた。多分、彼らは誰かに彼らの写真を取るよう頼んだのだろう。

laz se-i luso sin-e sel. tal sel u duen 12 sac?

少女は彼らが写真嫌いなのを知っている。だが十二年間の写真がない？

tu et zal / nak. tal tu et velx man lu in-i sesel zan hot hel-i taz.

これは奇妙で驚きである。しかし彼女は過去を思い出すためだけにアルバムを見たのだからこれは些細なことである。

lu nod-i sel e raesez al sel e wain. tot saal, eli at jax ye in.

彼女は屋根裏部屋の写真と祭りの写真を比べる。二枚目は、エリが少し太いようだ。

lu in-i me sel e raesez kont lapx. tu & zal.

彼女はため息をつきながら屋根裏部屋の写真を再び見る。これは――不思議。

sel u duen 12 sac as. # tam. op, sel tu at as sa 7 sac. hai, es sel tam tu xa-a eemkov yun xet?

十二年間も写真がない。……貴重である。おっと、この写真は七年前に撮影されたものだ。ところでなぜこの貴重な写真がゴミのように段ボール箱に会ったのだろう？

lu se-el xop ism. ya, lu asm-o al eli un ked-is.

彼女は容易に答えを知ることができる。そう、彼女は帰ってくるエリに聞くだろう。

lu sar-i sel al sesel, na-it me pels tot sems ka pofa.

彼女は写真をアルバムに戻し、クッションで再び部活について心配し始めた。

si tu, eli ked-ik ra.

この後、エリが家に帰った。

al loslat @soonoyun`

玄関へ「おかえり」

@soonoyun`

「ただいま」

eli tid-i skel minasif

エリはいつもと違い花束を持っている。

@ep, lulu tu et to! xo fit-a tu al ti sete?`

「えっ、一体これは何！誰かがこれをお母さんにあげたのでしょう？」

@tee, tee. an itm-a tu`

「違う、違う。私はこれを買ったの」

@ul ti itm-a? es?`

「お母さんが買った？なぜ？」

ind @ketta, ponz, ponz. an lad-i dave`

疲れて「さぁ、どいた、どいた。私は晩御飯を作るわ」

son laz ponz-i kont na-i kex, ku-i u.

すると少女は不満を覚えながらどいて、何も言わない。

nix @a, hel, hel, an ku-il xe al ti im sikt, passo?`

ほほ笑み「あ、思い出した、思い出した、私は後であなたにあることを言いたいの、いい？」

@#? passo`

「……？いいよ」

son eli lov-i al belka.

するとエリは台所に去る。

tsubaki : nae 7

椿：第七章

@im tiz, anso ikt-ax xok, tsubaki liiz`

「今は、私たちは互いに別れましょう、椿ちゃん」

tiz it dov. dovparp paas-i eel e tsubaki.

今は夕方。夕陽が椿の顔を照らす。

man tu, nia e lu it daf vao in.

そのため、彼女の紙はさらに茶色く見える。

tiz it 10 sec via il tsubaki akt-a lam aluha.

今は椿が初めて有葉に会ってから約十日である。

alufi, tiz, eli se-i moi tsubaki lat-i al koo.

つまり、今、エリはまだ椿がここに入ることを知らない。

im sec tu, tsubaki mis-i lam art man aluha das-i soo.

この日、有葉がそうすすめたので、椿は初めて魔法を試す。

@ap, nee, im tiz, ti mis-ex art?`

「あっ、ねえ、今、あなたは魔法を試したらいかが？」

nak`an mis-ix?

驚き「試していいの？」

@ya, mis-ex. ti lap-i fi?`

「ええ、試したらいかが。あなたは何を望むの？」

rof@an kern-il kak ti yun esp!`

興奮して「私はあなたと同じように雲のように飛びたい！」

@son ti so-in moa`

「ならあなたは既にそうしているわ」

@ep?`

「えっ？」

tsubaki na-i kern, alfi lis it mex il bol sa na-o zal. lu kern-i yun esp.

椿は跳んでいることを感じた、つまり不思議に思う前に足が床から離れていた。彼女は雲のように飛んでいる。

@a #`

「あ……」

lu ku-ul kes man nak.

彼女は驚きのため次を言うことができない。

@ti na-i to?`

「あなたはどう感じる？」

im tiz, tsubaki vin aluha it sor.

今、椿と有葉は同じぐらいの高さである。

@an# an os-a an xat-i xe # alfi arten kon xiv or ken xiv, io`

「私……私は何かが必要だと考えたわ……つまり声を使ってか声を使わないか、それとも両方を使った呪文が」

@ti xat-u arten tal lap, fak#`

「あなたは望めば呪文を必要としないわ、あと……」

tist@fak?`

小声「あと？」

@fak ka un lapn-e ti`

「あと貴方に願いをかなえる場所」

@son an art-ul ka koo os, ya?`

「じゃあここでないと私は魔法を使えないの？」

@ul ti, ax, xat-i ez tu`

「あなたは、必ず、この部屋が必要よ。」

tsubaki es-i aluha yol-i vet xop hot zan tsubaki lok-el aluha. son lu mik-i asm.

椿が有葉の言うことを理解できるように有葉は簡単な言葉だけ使っていると椿は思った。だから、彼女は質問をやめた。

tsubaki mik-i kern. lu lap-i soo, son lu xa-i ma mox bol tot lis.

椿は飛ぶことをやめる。彼女はそう望むと彼女は足が地面に着くところにいるようになった。

komo, aluha na-i ind ye in. tsubaki lov-i aluha kont ku-i

なぜか、有葉は少し疲れているようだ。椿はこう言って有葉のところから去る。

@doova kelk foo, aluha luu`

「明日までさようなら、有葉さん」

si tu lu xilf-i nan art-ul ka salez / ez e nan / felka, alfi ez li os.

この後彼女は居間、自分の部屋、学校つまりあの部屋でないところで自分が魔法を使えないということを実験する。

ka de kiven ez li ut “ka” er “fia” kaat tsubaki as-el art na.

あの部屋を除くすべての場所は椿が魔法を使える「場所」か「世界」ではない気がする。

lu as-el art ka koe hot. tal lu na-u kex. man lu na-i naft tin al as-ela ma art.

彼女はあそこだけで魔法が使える。しかし彼女は不満に思わない。なぜなら彼女は魔法を使えるようになったことにとても感動しているからだ。

lu as-elin art. son kes, lu axo-elo ix ok yayoi / youta tan.

彼女は魔法を使えるようになっている。だから次は、多分彼女は弥生と陽太も一緒に遊べるだろう。

son lu ret-i tu al aluha im lu akt-i la.

だから彼女は彼女が有葉に会う時にこれを有葉に頼んだ。

aluha na-i kox tal ons-i fina lu.

有葉は不十分に感じたが、彼女のために了承した。

tal #

しかし……

tiz it sec imat tsubaki se-i tot monk.

今は椿が引越しについて知った日である。

@tal anso axo-ul ok laso ol monk`

「でも私たちは引っ越したら彼らと遊べなくなるわ。」

lu xa-i temkez. lu sab-in moksab man besa xi-in moa man lu ket-a koo ras da.

彼女は物置部屋にいる。彼女が何度もここに来たため埃は既になくなっているので彼女はパジャマを着ている。

eli dep-a ami lu ket-e koo. tal lu ket-ah koo.

エリは彼女がここに来ることを禁じたばかりである。しかし彼女はここに来なければならない。

tiz it konoote, hao, omo. tal lu vat-a lau mok-ik.

今は零時、もちろん、眠い。しかし彼女は両親が寝るのを待った。

lu lip-i monk. tal lu vaxt-ul tu man miv. son lu os-a vaxt-o tu kon art. son lu ke-is fia e art.

彼女は引越ししたくなかった。しかし彼女は子供だからそれを何とかすることはできない。だから彼女はこれを魔法で解決しようと考えた。だから彼女は魔法の世界へ向かっている。

lu mof-i al janbol mesa not. yan hom-ip lat e raesez, alfi ev-ip siz del rob em eli ov-a.

彼女は慣れた様子でロフトに上る。そして屋根裏部屋の入口を開けようとする、つまりエリが置いたふたである板をどかそうとしている。

kato, u lat-a al raesez ten til lau se lad-i tu, man kla soven lat e raesez / janbol et hait tin sle mav.

そもそも、両親たちはここを作ったが、誰も屋根裏部屋に入らなかったという、なぜなら屋根裏部屋の入口とロフトの間の空間は大人にとって非常に低いためである。

eli ket-a koo im foi il lad-a ra tu ten.

エリは今日、この家を作って以来(初めて)ここに来たという。

tsubaki ev-ip rob tal len tu so-ul. lu mis-a xil tu im taz.

椿はふたをどけようとしたが、やはりそれはできない。彼女は過去にそれを試したことがある。

taik, im tiz, jixi is xa-u. son lu ev-ulo tu olta lu ret-i dal al yayoi / youta im foo.

さらに悪いことに、今は、隙間すらない。だから彼女が明日弥生と陽太に助けを求めても彼女はこれをどけることはできないだろう。

^an to-ah#~

（どうすればいいの……）

lu na-i pels. lu mek-i lau ol lu kekl-i tast aluha er ol bad-i rob.

彼女は悩んだ。もし彼女が大声で有葉を呼ぶかふたをたたけば、彼女は両親を起こしてしまう。

lu lap-i mis rob xi-i ma. tal tu et ikx man koo ut “fia”.

彼女はふたがなくなることを望んでみた。しかしここは「世界」ではないのでそれは無駄である。

^ret, aluha luu, xakl-al an, xakl-an an un ev-ul rob!~

（おねがい、有葉さん、私に気付いて、ふたを開けられない私に気付いて！）

lu vin aluha ot ma sor im xe. son lu ev-elo ma tu. tal lu monk-on xe too lu vat-i kant.

いつか彼女と有葉は同じ背丈になる。そうすれば彼女はこれをどけられるだろう。しかし彼女が成長を待てば彼女はどこかに引っ越しているだろう。

^xakl, ret!~

（気付いて、お願い！）

son, al arteD, aluha xakl-i tsubaki, ev-i rob.

すると、神よ！、有葉は椿に気付き、ふたをどける。

tsubaki mof-i al raesez kont na-i omt.

椿は喜んで屋根裏部屋に上がる。

tist enz @aluha luu!`

できるだけ小声で「有葉さん！」

tal aluha na-i pels in. lu xind-i tsubaki hi xelp ok elet tu.

しかし有葉は悩んでいるようだ。彼女はその表情で月明かりの下で椿を見送る。

tsubaki in-a xil elet tu. sa sec fou, tsubaki sak-a vaik ensle e ez yunen kov. lu xakl-un koo man lu os-i ez tu et tio kov han. tsubaki ke-ap koo eken omi yunen ez tis. son aluha ku-a on koo xa-e ul naf un av-e 3 nif/ pank e pam zan paas-e raesez. fak lu ku-a koo et lami man nif et sor. son tsubaki mik-a ke, in-a aluha. son im tu, lu elet-an lex tiz.

椿はその表情を見たことがある。二、三日前、椿は箱のような部屋の死角の部分を見つけた。彼女はこの部屋はただの広い箱だと考えたので彼女はここに気付いていない。椿は小部屋のような扉のないそこに行こうとした。すると有葉はここには三つのダンを持つ階段と屋根裏部屋を照らすためのスイッチがあると言った。さらに彼女は段が高いからここは危険だと言った。だから椿は行くのをやめて、有葉を見た。するとこの時、彼女は今の表情を浮かべていた。

im tu, tsubaki na-au zal tal tiz. elet hien xelp, tu eks-e to sei. ox, lu se-in tot monk, taik lu se-in art et xifet al monk sei.

その時、椿は不思議に思わなかったが、今は不思議に思う。月明かりの下の表情、これは何を意味するのだろう。恐らく、彼女は引越しについて知っていて、さらに悪いことに彼女は魔法は引越しに効果がないことを知っているのだろうか。

@nee, aluha luu`

「ねぇ、有葉さん」

son aluha ku-i kik lu se-in xalt.

すると有葉は、彼女が事情を知っているように言う。

@an se-i. monk man lab e lai e ti sete?`

「私は知っているわ。あなたのお父さんの仕事のための引っ越しでしょう？」

els @ya. son an vaxt-il tu kon art`

鬱「うん。だから私はそれを魔法でなんとかしたいの。」

lu ku-i tu kont os-i tu et enon. tal aluha ism-i fast.

彼女はそれを不可能なものと考えながらこう言った。しかし有葉は簡潔に答えた。

※enonはen(不可能)と-on(～されるもの)か。

@ya, ti so-el. tu et xop man ti xat-i lap hot. yan ul tu et art`

「ええ、あなたはそうできるわ。あなたに必要なのは望みだけだからそれは簡単よ。そしてそれこそが魔法なの。」

@xan?`

「本当？」

@ya`

「ええ」

tsubaki na-i nal. im tiz, lu ikt-ou ma yayoi / youta, fak aluha.

椿は安心した。今、彼女は弥生と陽太、それに有葉と別れないようになった。

tal tsubaki asm-il xe del#

しかし椿はあることを訪ねたかった……

@hai, es ti elet-in lex pels?`

「ところで、なぜあなたは心配そうな表情を浮かべてるの？」

aluha in-i hi kont ku-i u. yan ku-i kent in-i lu.

有葉は何も言わず下を見る。そして彼女を見ずに言う。

@pentant# an ikt-ah lim ti`

「ごめんなさい……私は最後に貴方と別れなければならないの」

@# ep?`

「……えっ？」

@an na-a ban tin man an axo-i ok ti. an axo-ila milx ok yayoi liiz / youta sou`

「私はあなたと遊べてとても楽しかったわ。私はできるなら弥生ちゃんと陽太君と遊びたかった。」

@v# vat. tu# rom rak`

「ま……待って。それは……急すぎるわ」

@vantant, tsubaki liiz #`

「ごめんなさい、椿ちゃん……」

raestems it-ik rom hom. yan aluha it ma mex il bol.

天窓が突然開いた。そして有葉は床から離れる。

@teo! ke-ol!`

「駄目！行かないで！」

tsubaki tast-ik vex. tal, al arte, lau xakl-u lu.

椿は思わず叫んだ。しかし、神よ、両親は彼女に気付かない。

@ilpasso, anso lamakt-elo me xok im xe. son doova kelk tu`

「大丈夫、私たちはいつかまた出会えるわ。だからそれまでさようなら」

@son tu et om{`

「じゃあ、それはいつ？？」

ai, tsubaki ku-it kont ena.

ついに、椿は泣きながら話し始める。

@an ot nok al ti ol ti so-el ma tuse, 2. elt, ti xat-o na 4 zan art em an xax-au al ti. ti se-al tu et to ok nan hot`

「あなたがこれら2つのことをできるようになったら、私は現れるでしょう。一つ目は、あなたは私があなたに教えなかった魔法のための第四の心を必要とするでしょう。あなたは自分だけでこれは何なのか知りなさい。」

tsubaki wik-i tax

椿は素早く頷く。

@yan saal et ret e an`

「そして二つ目は私の願い」

aluha sod-i, tee, fatl-i kmi un et kik al insvink tot tus il kla.

有葉は大きさにおいてブルーベリーと似た種を空間から発生、いや、取り出した。

@mina tu ot manx ol ti vaxt-i tuse`

「あなたがこれらを解けばこの花が咲くでしょう」

kumi tu it mex il las e aluha. yan tu it mob al bol alat xelp ilen raestems et nox.

この種は有葉の手から離れる。そしてそれは、天窓からの月明かりが集まる床に埋まる。

@an ot nok al ti ol ti vaxt-i tuse, 2. son mina e pina del tu ot manx. son# saa ak an okt-o tu al ti eyo? ya, son an hom-o ye me omi e temkez / lat e raesez. yan an yus-o uni e ti del populi parp-i ket en`

「あなたがこれら二つのことを解けば私はあなたのところにあらわれるでしょう。するとこの約束の花は咲くでしょう。だから……えっと私はそれをどうやってあなたに伝えようかしら？そうね、それでは私は物置部屋の扉と屋根裏部屋の入口を再び少し開けましょう。そしてわたしはあなたのねこちゃんであるぽぷりが日にあたりに来るようにさせましょう。」

@lok, alfi populi pal et apat e ti sete?`

「わかったわ。つまり白いぽぷりがあなたの合図でしょう。」

@ti et leat, tsubaki liiz. ya, an yol-o populi lex apat. son ti hel-al sod e foi, sod toten an`

「あなたは賢いわ、椿ちゃん。ええ、私はぽぷりを合図に使いましょう。そうしたら貴方は今日のこと、私のことを思い出して」

@pina!`

「約束する！」

@son an tapk-i “saal”del ret e an`

「それでは私は「二つ目」である私の願いを説明するわ」

tsubaki ten-i tu, wik-i dan.

椿はそれを聞き、深く頷く

tsubaki na-i nak / emt tin man limikt rom.

椿は急な別れのためとても驚き、深く悲しんだ。

son lu ena-i tin si aluha lov-a il raestems.

だから彼女は有葉が天窓から去った後、ひどく泣いた。

^an vaxt-o ax tuse! ya, ax!~

（私はかならずこれらを解くわ！うん、必ず！）

son lu vosk-it tin is-i ena. yan ku-ik,

すると彼女は涙を止めようとはなはだ努力し始めた。そして言った、

@ilpasso sete, pelulu!`

「大丈夫でしょ、ペルル！」

laz : nae 5

少女：第五章

@a, hel, hel, an ku-il xe al ti im sikt, passo?`

「あ、思い出した、思い出した、私は後であなたにあることを言いたいの、いい？」

@#? passo`

「……？いいよ」

son eli lov-i al belka.

すると、エリは台所に去る。

si dave, kap fo-i. eli sok-i. laz se-i ole et yuuitxi del lai man kuom e eli.

晩御飯のあと、電話が鳴る。エリは答える。少女はエリの口調から相手は父雄一であることを知る。

si kap, eli elet-i lex pels.

電話の後、エリは心配そうな表情を浮かべる。

@pels#, la ked-u ra im foi tan man la et vok`

「心配だわ……、彼は忙しいから今日も家に帰らないわよ。」

yuuitxi et vok kalk laz at lijm vao ento ked-ul ra il loit son laz os-i tu et skol. tal lu es-i tu et skel.

雄一は少女がさらに幼いころから家に帰れないほど忙しいので少女はこれはいつものことだと考えた。しかし彼女はこれはいつものことではないと思った。

@apen, ala la os-i to til la se-i foi et to`

「呆れた、彼は今日が何なのか知っているのに一体何を考えているのかしら」

@tu eks-e la et vok tinkaa. hel, ima tu, labes sam lod-e vint`

「それはお父さんがものすごく忙しいということよ。ほら、この時期、新しい社員が無事に入社するし」

laz ku-i soo man lunan lod-a ami parmmifi.

彼女自身中学に入学したばかりなので少女はそう言った。

eli it ma rof vae man laz, skin-i al pofa, ji-i pofa saen nan al laz. tu aj-e skin. son laz skin-i al pofa sa eli. eli tid-i monasif li em laz in-a im sakt. lu in-i minasif, ku-i

エリは少女の言うことにやや落ち着き、クッションに座り、少女に自分の前のクッションを指差す。それは座れということを示す。だから少女はエリの前でクッションに座る。エリは少女が先ほど見た花束を持っている。彼女は花束を見、言う。

@nee, ti ten-al an mesa tap / ref, passo? an ku-i xe volx al ti il tiz, ya?`

「ねえ、私の言うことを真剣に落ち着いて聞きなさい、いい？私は今からあなたに重要なあることを話すわ、いいこと？」

laz wik-i kont xen-i kue.

少女は唾を飲みながら頷く。

@ai, ti lod-ik parmmifi, et ma sum 12. ti it-ik kant mesa fam. an na-i omt`

「ようやく、あなたは中学に入り、十二歳になったわ。あなたは丈夫に育った。私は嬉しいわ。」

wik @son# slem et#`

頷く「それで……要点は……」

laz soln-i slem man lob-i katsa tapn.

少女は真剣な前置きを厭うて要点を促す。

@ten, ten#. diin, anso ku-il xe al ti til tu at nekt man ti it ma parmmifian. an dins-a ti im an at sum 34, 12 sac via il macs`

「聞いて、聞いて……。とにかく、あなたが中学生になったからこれは秘密だけど、私たちはあなたにあることを話したいの。私は私が三十四歳の時、結婚から約十二年の時、貴方を出産した。」

@alfi, an et moa nev sete`

「つまり、私は遅い娘でしょう」

@ya. tal ti es-u zal tot an dins-a nou u sov 12 sac as?`

「ええ。でもあなたは私が十二年もの間一人も子供を出産しなかったことについて不思議に思わないの？」

@saa#`

「えっと……」

laz lok-el ir eli.

少女はエリの言うことが全く理解できない。

@alfi, ail, ti av-e milx eta er eto sete?`

「つまり、普通、あなたは姉か兄がいるかもしれないでしょう？」

@ya, xam. tal# an iv-e#`

「うん。そうね。でも……私は持っていない……」

@#`

「……」

eli ku-i u. liv. laz tan it mi liv. laz in-i eli pels / kin du fon. tal im tu, lu xakl-ik rom xe.

エリは何も話さない。沈黙。少女も黙ったままである。少女は長い間、悩み辛そうなエリを見る。しかしその時、彼女は急にあることに気付いた。

@ox!`

「もしかして！」

tal lu ku-ul kes.

しかし彼女は次を話せない。

ask @xan# ti av-e eta, tee, ti so-a`

ようやく「実は…あなたには姉がいるの、いえ、いたのよ」

laz jins-ul uk nan ku-ih. eta em lu in-u xil?

少女は自分が言うべきことが判断できない。彼女が見たことがない姉？

lu ku-ul fi al eta la is.

彼女はあの姉にさえ何も言うことができない。

@la#` eli yol-it “la” @ke-a xe, ked-au ma ra im foi saen 12 sac. la lod-a ami parmmifi im tu.

「彼女は……」エリは「彼女」と使い始める「どこかに行って、十二年前の今日、家に帰ってこなくなった。彼女はこの時中学に入ったばかりだったわ。

do, an, yuuitxi, atnraan, fak nainan vit-a la. tal anso sak-ula la. yan im tu, al an dans-in ti. si la sed-a en, ti vart-a isk`

みんな、私、雄一、近所の人、それに警察が彼女を探したわ。でも私たちは彼女を見つけられなかった。そしてその時、私はあなたを妊娠していた。彼女が消えた後、まもなくあなたが生まれたわ。」

laz in-u ma eli kont ku-i u, in-i minasif em eli tid-i. eli xakl-i laz in-i tu, ku-i

少女は何も言わずエリを見なくなり、エリが持つ花束を見る。エリは少女がこれを見ていることに気付き、言う。

@sen, tu et fina la. an vortdins-ap ti man cajik. tal im tu, an lond-a la. ka lond, la axo-a ok eti mesa`

「そういうことで、これは彼女のためのものよ。私はショックであなたを流産しそうになった。でもその時、私は彼女の夢を見たの。夢で、彼女は妹と遊んでいたようだった」

toim, eli ena-is.

いつしか、エリは泣いている

@la na-a omt al av-o eti man anso it vok. fak la ikt-a lim hacn se im felnif 6, alfi monk al ra tu`

「彼女は私たちが忙しいから妹を持つことを喜んでいたわ。あと彼女は六年生のとき友達と別れたの、つまりこの家に引っ越して」

eli ku-ul ma kes, ena-is.

エリは次を話せなくなり、泣いている。

laz fatl-i sel il sama al eli.

少女はポケットから写真を取り出し、エリへ

@tu# ka am?`

「これ……どこに？」

@temkez. im sakt, ya tio im sakt, an sak-a tu. lu un xa-e sov tiso# et eta imen lijm?@

「物置小屋よ。さっき、そうほんのさっき、私はこれを見つけたのよ。あなたたちの間にいる彼女は……幼いころの姉？」

@ya, sum 5. tal tu et zal man tu xa-a mi. anso vins-a de toten la zan kel-o la. son fikn tu et falsul na`

「ええ、五歳。でも、これがまだあるなんて不思議ね。私たちは彼女を忘れるために彼女についてのすべてを捨てたのよ。だからこの残ったものは生き残りのようね。」

@im sakt, ka loslat, an asm-ap xe al ti, alfi mebl du 12 sac e sesel. tal im tiz, an lok-in de`

「さっき、玄関で、私はあることをあなたに聞こうとしたの、つまりアルバムの十二年間の空白を。でも今、私は全てを理解したわ。」

eli ku-i xe al laz. yan, kit, lu ku-i ez li at e eta e laz, ret-i laz mold-i sel tu / minasif al ez e la.

エリはあることを少女に言う。そして、終わりに、あの部屋は少女の姉の部屋であると彼女は話し、少女にこの写真と花束をあの部屋に持っていくよう頼んだ。

son laz ke-i ez tu, ov-i minasif al elen, ke-i nanez, na-i naft / emt.

だから少女はこの部屋に行き、花束を机に置き、自分の部屋に行き、感動と悲しみを覚えた。

laz asm-a al eli im lu lov-i salez on est e eta lu et aluha kok.

少女は彼女がリビングから去る時、その姉の名前は有葉でしょうとエリに尋ねた。

eli na-a nak, asm-a es lu se-i tu. tal laz nix-i emt ist ism.

エリは驚き、なぜ彼女がそれを知っているのか尋ねた。しかし少女は答える代りに悲しく微笑んだ。

laz hel-il sod li saen 5, 6 sac, alfi artan del aluha.

少女は五、六年前の出来事、つまり魔法使い有葉のことを思い出したかった。

la et xan artan sei? ya, on tu se-e ul laz lu.

彼女は本当に魔法使いなのだろうか？そう、それはこの少女が知っている。

^diin, an mans-ah mina e pina man tu et pina~

（とにかく、これは約束だから私は約束の花を書かせなければならないわ）

lu id-i mas e sems. xazim e foo.

彼女は部活の紙が見える。期限は明日である。

im tiz, lu os-i ma nan lod-o selossems em ens-a tin kont ok hacn del yayoi un das-a milfsems al lu.

今、彼女は、彼女に美術部を勧めた友人弥生と共にはなはだ断った幽霊部に入ろうと考えるようになった。

mon, lu xil-ik knoos. son lu nax-u ma al sems tu.

確かに、彼女は謎を経験した。だから彼女はこの部を笑わなくなった。

lu vit-it xe ka kove si axt-a selossems al mas tu zan sak-i tex xe toten amalis e aluha.

彼女は有葉の思い出についてのある情報を探すためにこの紙に幽霊部と書いた後、押し入れで何かを探し始めた。

tex# loxt kol e lu, lu xat-i 2 vols zan mans-i mina e pina em aluha tonx-a.

情報……彼女の記憶の範囲では、有葉が飢えた約束の花を咲かせるために彼女は二つの条件を必要とする。

tal im tiz, lu se-i moa elt. lu hel-a tu im xook alen eli.

しかし今、彼女は既に一つ目を知っている。彼女はエリとの会話の時それを思い出した。

elt et lok-e na 4 un xat-e yu zan art et to.

一つ目は魔法のために必要とされる第四の心は何か理解することである。

art xat-e 4 na, alfi lolna har / otnna hir / livrona hor. tu et tex de.

魔法は四つの心を必要とする、つまり赤い好奇心、青い耐える心、緑の生命の心である。これが全ての情報である。

lu xix-a tu ka parmmifi, alfi har / hir / hor e paa lad-el nim de e paa. aluha ku-a nan nab-e paa al mas e na. tal 3 paa tuse lad-ul nim xe, alfi pil. ax, nim e na 4 et pil. kon tu fak, do sak-el de. tal lu se-ula pil eks-e to olta enz.

彼女は中学でこれを習った、つまり光の赤と青と緑は光のすべての色を作れるということを。有葉は自分が心の紙に光を塗ると言った。しかしこれら三つの色ではある色、つまり黒をつくることはできない。これを加えることで、皆はすべてを見いだせる。しかし、どうしても彼女は黒が何を意味するのか知ることはできなかった。

tal lu se-ak tu man xook alen eli. lu ten-a xe tot eta del aluha un na-a kea emt / lik, sed-a en ok u. eks e nim 4 et tot al fio e sod e aluha.

しかし彼女はエリとの会話でこれを知った。姉有葉はいつも悲しさと寂しさを覚え、一人で消えたことについて彼女は聞いた。第四の色の意味は有葉の事件の真相に関係している。

eli ku-au fio al laz man lu it lijm. tal lu nalo-a fio.

エリは彼女は幼いので少女に真実を語らなかった。しかし彼女は真相を察した。

na 1 eks-e lol. alt na 2 eks-e otn. tuse et kek, alfi dals telen dils. son na 4 tan et kek al na 3. alfi, na 3 eks-e livro# vart# son na 4 so-e#

第一の色は興味を意味する。一方第二の色は忍耐を意味する。これらは逆であり、つまり非活発に対する活発である。だから第四の心も第三の心の逆である。つまり、第三の心は生命……誕生を意味する……つまり第四の心が意味するのは……

&vort

――死

ax, tu eks-e “fio e sod”, alfi minis e sod.

必ず、それは「事件の真相」、つまり事件の結果を意味する。

im tiz, laz lok-ik elt e vols. vols 1, na 4 et vort un et pil.

今、少女は条件の一つ目を理解した。第一の条件、第四の心は黒き死である。

tiz, lu vaxt-ik vols 1.

今、彼女は第一条件を解いた。

tal lu hel-ul vols 2 del ret e aluha olta enz.

しかし彼女はどうしても第二の条件である有葉の願いを思い出せない。

son lu vit-is amalis ka kove.

だから彼女は押し入れで思い出を探している。

tal lu sak-i rafel e ketifis / sevaxt / xak, fak lent e pelulu fiin un at lakt im li hot.

しかし彼女は夏休みの宿題、作文、絵、あの当時人気だったペルル少年の人形だけを見つける。

mon, tuse et yoi. sevaxt em lu axt-a im lod-a ami parmmifa xa-i tuse. est e tu et “lap e an”.

明らかに、これらは役に立たない。これらに彼女が小学校に入学したばかりのころに書いた作文がある。これの題名は「わたしのねがい」である。

laz in-i vex tu, ixt-it.

少女はふとこれを見て、読み始めた。

“lap e an” axtan : tsubaki hanexilo

「わたしのねがい」 さくしゃ：はねしろ　つばき

an lap-i anso del laa / lai / yayoi / youta / populi, fak an xa-e kea xok. yan lap-i anso et viso.

わたしは、わたしたちおかあさん、おとうさん、やよい、ようた、ぽぷり、あとわたしがいつもいっしょにいることをねがいます。そしてわたしたちがなかよしであることをねがいます。

an lip-e lik skol, lip-e xa-e ra ok u.

わたしはいつもさみしくいたくありません、ひとりでいえにいたくありません。

an na-i nom al yayoi / youta man luso av-e eta or ete kok an.

やよいとようたにはわたしとちがってあねやおとうとがいるから、わたしはやよいとようたがうらやましいです。

laz ixt-ik tu, na-i vem. lu os-it aluha et xib, alfi dia em nan lad-a man nan at lik tin.

少女はこれを読み、恐れた。彼女は、有葉が空想であると、つまり自分はとても寂しかったから自分が作った幻であると考え始めた。

tal# tal aluha et eta xab e lu. lu ku-a tea est e nos al lu. la et-ul dia. ya, soo, lu os-i, pik-i lent e pelulu fiin.

しかし……しかし有葉は彼女の現実の姉である。彼女は自分の名前を彼女に正しく言った。彼女は幻ではありえない。そう、そういうことで、彼女は考え、ペルル少年の人形を握る。

@#?`

「……？」

lu ku-il ma xe. tal lu hel-ul ku tu.

彼女は何かを言いたくなる。しかし彼女はこの言葉を思い出せない。

@saa#`

「えっと……」

son populi xiv-i uni im lu ov-i lent al bol.

すると、彼女が人形を床に置いたときぽぷりが「うに」と鳴く。

@populi# ap, tee, ti ke-a me raesez sete. saia, an erx-a ti sa dave`

「ぽぷり……あっ、だめ、あなたはまた屋根裏部屋に行くのでしょう。仕方ないなぁ、私は晩御飯の前にあなたを洗ったのに」

populi ikx-a erx, fak lu lov-i ez zan ikx-o vao.

ぽぷりは洗うことを無駄にして、さらに無駄にするために彼は部屋を去る。

@wei} ti ket-a koo zan to aan`

「ちょっと～！何のためにここに来たのよ」

tal im tiz, lu xakl-ik rom xe. alfi, komo lu na-i aluha kekl-i lu. populi pal et apat zan laz manx-ah mina.

「しかし今、彼女はあることに気がついた。つまり、なぜか彼女は有葉が彼女を読んでいるように感じた。白いぽぷりは少女が花を咲かせなければならない合図である。」

im dov e foi, populi at ma pal il 6 sac.

今日の夕方、ぽぷりは六年ぶりに白くなった。

im tu, lu parb-a kot en. tal tiz, soo os man dev.

この時、彼は日にあたりに行った。しかし今、夜だからそうではない。

populi ke-i vox os koe. son lu na-i aluha kekl-i lu, ke-i raesez kont sike-i al populi.

ぽぷりは意図してでなくあそこへ行く。だから彼女は有葉が彼女を読んでいると感じ、ぽぷりについて行きながら屋根裏部屋に行く。

raesez it ef ye. lu es-i nan at vom man lu ket-ela ok u on koo em xelp hot paax-e.

屋根裏部屋は少し寒い。彼女は月明かりだけが照らすここに一人で来ることができたので、自分は勇敢だったと思った。

tee, im li, lu na-u vem. tal komo, vem im tiz.

いや、あの時、彼女は恐れなかった。しかし、なぜか、今は恐ろしい。

lu se-e nan art-el ka koo hot man koo et “fia”. son kla tu et tot tin al art, fak 4 na.

ここは「世界」であるから彼女は自分がここだけで魔法が使えることを知っている。だからこの空間は、魔法、そして四つの心にとても関係している。

lu na-i vem im tiz man lu se-in na 4 eks-e vort.

彼女は第四の心は死を意味するということを知っているので、彼女は今は恐れを感じる。

lu id-i populi un sake-a koo, na-i nak / vem.

彼女はここに導いたぽぷりが見え、驚き恐れた。

populi it ma pil man lu xa-i ensle e xelp.

ぽぷりは月明かりの死角にいるので、ぽぷりは黒くなっている。

laz in-u ma rom lu, id-i mina e pina. tu et mip mini.

少女は急に彼を見なくなり、約束の花が見えた。これはまだ芽である。

lu hel-ul im tiz tan on vols 2 del ret e alha.

彼女は今も第二の条件である有葉の願いを思い出せない。

populi pil meslof-i ent kont siv-i afo.

黒いぽぷりは低く泣きながらゆっくり歩きまわる。

alt, laz hel-ip enz pint. aluha sed-a en hi xelp tu. lu fana-i al hel-i sod tu. tu et sla e lomikt.

一方、少女は一生懸命手がかりを思い出そうとしている。有葉はこの雪明りの下で消えた。彼女はこの出来事を思い出すことに集中する。これは別れの場面である。

lu id-i elet pels e la ka na.

彼女は心で彼女の心配そうな表情を見る。

lu in-a xil elet tu sa tu.

彼女はこの表情をその前に見たことがあった。

hel, lu in-a tu im lu ke-ip ensle e ez tu em pank e pam / naf hot xa-e ten. la ku-a nan na-o pels ol pam it as.

思い出した、電灯のスイッチと階段だけがあるというこの部屋の死角に彼女が行こうとしたときに彼女はそれを見たのだ。彼女は電灯がついたら自分が困ると言った。

laz na-i ma zal. la elet-a lex soe im ensle / limikt.

少女は不思議に思うようになる。あの人は死角と別れのときあのような表情を浮かべた。

tu eks-e ensle em pank / naf hot xa-e is vin limikt et volx. mon tu et xal. ax, ai, lu sak-ik pont.

これはスイッチと階段だけがある死角などが別れと同じぐらい重要だということを意味する。確かにこれは理屈である。必ず、ついに、彼女は手がかりを見つけた。

@kuim, an ke-u xil ensle li#`

「そういえば、私はあの死角に行ったことがない……」

lu in-i me populi un ke-is ensle mesa ent, ent#.

彼女は、ゆっくりとゆっくりと……死角へ行っているぽぷりを再び見る。

lu na-i na 4 del vort pil lof-is.

彼女は第四の心である黒き死が歩いていると感じる。

kato, populi et apat e aluha.

そもそも、ぽぷりは有葉の合図である。

populi un et apat e aluha, eks-e vort pil.

有葉の合図であるぽぷりは、黒き死を意味する。

lu na-i evi tot gag. erim it-it rom as tin.

彼女はのどに乾きを感じる。心臓が急に激しく脈打つ。

yan lu sike-i ent al populi on ensle.

そして彼女はゆっくりぽぷりについて死角へ行く。

im li, lu na-a ez tu et kas vao nod tiz. lu na-i nan it-in kant. il koo al ensle it fen na. soo, lu na-ik.

あのとき、彼女は今よりこの部屋は大きかったと感じた。彼女は自分が成長していることを感じた。ここから死角へは短い気がする。そのように、彼女は感じた。

populi evn-ik en ka ensle. ya, lu ovn-i ir ma.

ぽぷりは死角で止まった。そして彼は完全に止まる。

lu in-i ensle kon vom. son rom, mina e pina it-ik mans.

彼女は勇気を持って死角を見る。すると突然、約束の花が咲いた。

mina tu av-e 4 mint. tuse av-e nim kok.

この花は四つの花びらを持っている。これらは異なる色を持つ。

har/ hir / hor, fak pil. tu et dee mina e pina.

赤、青、緑、加えて黒。これが約束の花である。

&yan aluha xa-i koo.

――そして有葉はここにいた。

@a# luha luu`

「あ……有葉さん」

aluha un av-i niamo, sab-in sab tol kol e laz xa-i koo.

少女の記憶通りの髪型を持ち、服を着ている有葉がそこにいた。

pin, lu snok-in en al naf mesa mox tap.

ただし、彼女はきちんと接触した状況で階段に横たわっている。

lu ovn-i ir en. ya, il sac da.

彼女は全く動かない。そう、何年も前から。

vortmai e aluha it lant til fon rakm-in.

有葉の死体は長い年月が経過しているのに美しい。

tist@#hel`

小声「……思い出した」

ai, vols 2 del ret e aluha. la ret-a xe al laz im tu. la ret-a laz xe-o si vols 1.

ついに、第二の条件である有葉の願い。彼女はこの時少女にあることを頼んだ。彼女は第一の条件の後で少女があることをするよう頼んだ。

la ku-a soo.

彼女はこう言った。

@si tu del vols 1, son# sak-al an`

「第一の条件であるこれの後、そうしたら……私を見つけて」

mina e pina it-in mans hi xelp yun na-i kax.

約束の花は月明かりの下で満足したように咲いている。

im foo, laz lod-ik milfsems ok yayoi del hacn.

翌日、少女は友人の弥生と美術部に入った。

lu lod-u selossems man lu os-a nan tet-ih en al aluha.

彼女は自分は有葉とかかわらないほうがいいと考えたので幽霊部に入らなかった。

lu ked-i ra, skin-i al felelenski, hel-i vex sod e foa.

彼女は家に帰り、学習机の椅子にすわり、ふと昨日の出来事を思い出す。

aluha lisk-a / niks-a en il naf. yan osn at bad kon bol min vort-ik.

有葉は階段から躓き転倒した。そして床に頭を打ち、亡くなった

lau se os-a u ke-e raesez. son u vit-a lu ka koo. kav nan.

両親たちは誰も屋根裏部屋に行かないと考えた。だからだれも彼女をここで探さなかった。自分を含めて。

taik, aluha mold-an mesk / lasl / sab al raesez. son do os-a lu ked-un ra.

さらに悪いことに、有葉は鞄と靴と服を屋根裏部屋に運んであった。だからみんなは彼女が家に帰らなかったと考えた。

hai, es aluha soo-a sei. laz os-i soo.

ところで、なぜ有葉はそうしたのだろうか？少女はこのように考える。

aluha at malt im tu kak laz e tiz. fak lu tif-a harn moa.

有葉は今の少女と同じくこの時思春期だった。さらに彼女は既に友人を失っていた。

fak, fak lau se at vok min lu na-i lik tin.

さらに、加えて両親たちは忙しかったので彼女はとても寂しかった。

son lu hem-a en tot na, so-a en al raesez li kaat lad-i fia xib. yan fia tu at ma rem fia e art.

だから彼女は心を閉ざし、空想の世界を作ったあの屋根裏部屋に自らを閉ざした。そしてこの世界はゆっくりと魔法の世界に変わった。

laz se-u aluha at xan artan or. tal lu se-i la at artan ka raesez li del fia e art olta oi.

少女は有葉が本当の魔法使いか否かを知らない。しかし少なくとも魔法の世界であるあの屋根裏部屋で彼女は魔法使いだったことを彼女は知っている。

laz lip-a monk al aluha kon art ka koo.

少女はここで有葉に魔法で引越ししないことを望んだ。

son tu at lapn. sen tu tapn-e la et xan artan kok.

そしてそれは叶った。そういうことでそれは彼女が本当に魔法使いであることを説明するのだろう。

tal, ox, tu at xel is. tal tu et velx al laz.

しかし、恐らく、これは偶然だったのかもしれない。しかしこれは少女にとって些細なことだ。

aluha, la at xan artan sle laz.

有葉、彼女は少女にとって本物の魔法使いだった。

laz jal-ik nan ku-o u tot aluha al do.

少女は自分は有葉のことについてみんなに何も言うまいと決めた。

aluha kaf-a laz un et lik kak aluha.

有葉は有葉と同じように孤独な少女を憐れんだ。

aluha, la lap-a xo sak-o la un at kea lik, vort-a lik.

有葉、彼女は常に孤独であり、孤独に死んだ彼女を誰かが見つけることを願った。

fak, xo et-ah laz lu del eti e aluha. ya, laz lu un tan na-a lik tinkaa. sen laz jal-ik nan ku-o u tot aluha.

加えて、誰かは有葉の妹であるこの少女でなければならない。そう、とてもとても寂しさを感じたこの少女。そういうことで少女は有葉について何も言わないと決めたのだ。

im tiz, tee, im tez, la mok-e en mesa liv ka fia e nan.

今、いや、いつも、彼女は静かに自分の世界で眠る。

populi lat-i al ez kont xiv. tiz, lu ut pal.

ぽぷりは泣きながら部屋に入る。今、彼は白くない。

laz in-i vex sevaxt li haen elen del “lap e an”.

少女はふと机の上のあの作文である「わたしのねがい」を見る。

yan lu fitl-ip tu al kove. tal im tiz, lu xakl-ik xe it-in axt al hil e mas, na-i livnak tin.

そして彼女は押し入れにそれをしまおうとする。しかし今、彼女は紙の裏に何か書いてあることに気付き、とても静かな驚きを覚えた。

“elt: an lok-ah na 4

saal: an sak-ah aluha luu”

“ひとつめ：わたしはよっつめのこころをわからなければならない

ふたつめ：わたしはあるはさんをみつけなければならない”

tsubaki : nae 8

椿：第八章

@passo, tu ot passo olta an kel-i tu`

「大丈夫、もし私がこれを忘れてもこれで大丈夫」

tsubaki axt-ik savi e pina alen aluha al hil e mas e sevaxt e rafel un esef-a yu ami il xaxan si limikt-a aluha.

椿は有葉と分けれた後、先生から返却されたばかりの宿題の作文の紙の裏に有葉からの約束の内容を書いた。

tsubaki ov-i zomk al elen, lapx-i.

椿は机に鉛筆を置き、ため息をつく。

lu es-i nan akt-o me ax aluha im xe.

彼女はいつか自分がまた彼女に会うだろうと思った。

kelk tu, lu na-o me lik. tal amalis e aluha fit-a lana al tsubaki.

その時まで、彼女は再び寂しさを感じる。しかし有葉の思い出は椿に希望を与えた。

@an na-u lik!` kon xiv, lu tin-i jal.

「私は寂しくない！」と声にし、彼女は決意を固める。

@ilpasso sete, pelulu!`

「大丈夫でしょ、ペルル！」

atn tsubaki xiv-ik ul populi fo uni.

椿の近くでぽぷりが「うに」と鳴いた。

&kit.

――終。

О\Й\А

ウムトナの年パールの月リディアの日(２００５年９月６日)

**参考文献**

○原資料

セレン＝アルバザード "[alkas.lzh](http://kakis.cocolog-nifty.com/blog/files/alkas.lzh)"   
[アルカの部屋](http://kakis.cocolog-nifty.com/) > [まっしろけのぽぷり](http://kakis.cocolog-nifty.com/blog/2007/08/post_9116.html)   
※『小説版アンクノット』のあらすじ(1999年5月29日～2001年4月26日)。IMG\_0021以降は"popli pal"(2005年7月1日執筆開始 2005年9月6日執筆完了)

セレン＝アルバザード "[alxan.lzh](http://kakis.cocolog-nifty.com/blog/files/alxan.lzh)"   
[アルカの部屋](http://kakis.cocolog-nifty.com/) > [まっしろけのぽぷり](http://kakis.cocolog-nifty.com/blog/2007/08/post_9116.html)   
※"popli pal"(2005年7月1日執筆開始 2005年9月6日執筆完了)

セレン＝アルバザード "[alson.lzh](http://kakis.cocolog-nifty.com/blog/files/alson.lzh)"   
[アルカの部屋](http://kakis.cocolog-nifty.com/) > [まっしろけのぽぷり](http://kakis.cocolog-nifty.com/blog/2007/08/post_9116.html)   
※"popli pal"(2005年7月1日執筆開始 2005年9月6日執筆完了)

○使用フォント

セレン＝アルバザード "[sidmin\_taphac.zip](http://kakis.cocolog-nifty.com/blog/files/sidmin_taphac.zip)"(フォント:旧明朝taphac)   
[アルカの部屋](http://kakis.cocolog-nifty.com/) > [無題](http://kakis.cocolog-nifty.com/blog/2007/08/200_2.html)

○辞書

セレン＝アルバザード "[arka-parm.lzh](http://kakisdespa.cocolog-nifty.com/blog/files/arka-parm.lzh)"   
[人工言語アルカ](http://www8.atwiki.jp/arbazard/) > [vaste解読に必要な辞書](http://www8.atwiki.jp/arbazard/pages/288.html) 2008/07/27 3:33 GMT   
※[中期制アルカ](http://www33.atwiki.jp/kakis/pages/10332.html)のPDIC辞書。時期は、2004年の02/20(lis\_mat), 02/24(gil\_vii), 03/23(ful\_vii), 04/18(ful\_mir), 05/05(dyu\_lii), 07/30(zan\_jil), 08/10(pal\_vii), 08/26(pal\_rez), 09/12(mik\_mel), 10/19(fav\_tan), 10/22(fav\_jil2), 11/06(ruj\_dyu)

セレン＝アルバザード "[xia318.dic](http://kakisdespa.cocolog-nifty.com/blog/files/xia318.dic)"   
[人工言語アルカ](http://seren.jougennotuki.com/index.html) > [ツール置き場](http://seren.jougennotuki.com/kon.html) 08/01/20   
※制アルカ最後の辞典

○文法

セレン＝アルバザード "[研究書](http://kakis.cocolog-nifty.com/blog/files/fol.zip)"   
[アルカの部屋](http://kakis.cocolog-nifty.com/) > [わすれもの](http://kakis.cocolog-nifty.com/blog/2007/08/post_bd67.html)   
※メル17年の大綴字改革以前のアルカの語法用法等が多数収められている。2005年12月18日以後と以前の綴りの変化を綴った[パルサー＝アルバザード](http://www33.atwiki.jp/kakis/pages/1196.html)氏の『[変更一覧](http://www33.atwiki.jp/kakis/pages/5403.html)』は必見。